

第6グループ【産業・観光分野】

みなとタウンフォーラム・第6グループ 産業・観光分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第6グループ [メンバー]

井上 正広 大塚 珠眞子 小林 典子
浜田 拓郎 堀山 正雄 松浦 正明
他1名

※メンバーは五十音順、氏名は同意の方のみ掲載



提言にあたって

第6グループ【産業・観光分野】

第6グループは、メンバーの関心に基づき、「港区の強みを生かした産業振興」と「シティプロモーション」をテーマとして議論を重ねてきました。

「港区の強みを生かした産業振興」については、産業分野にかかわらず広く産業を捉えています。それは、観光、商業、その他産業などの分野を横断して検討するほか、産業振興に関わる主体を限定せず、在勤者や観光客、商業者を横断して議論する視点を持つことができ、さらには区民にもたらされる価値についても検討するためでもありました。

ビジネス経験が豊かで、「港区愛」があふれるメンバーが集まったことで、具体的な事業についてアイデアを出し合い、生み出すことができました。その結果、実効性のある提言に至りました。

「港区の強みを生かした産業振興」では、国際都市・東京の経済活動の中心地である

港区としての対外的なインパクトの強化と区内経済基盤を更に確立するための提言にくわえて、区民が安心して暮らし続けるための医療・福祉分野の産業振興に関する提言も含まれています。その点でバランスの取れた内容だと考えます。

「シティプロモーション」については、区内に多くの観光客を呼び込むだけでなく、「港区」を意識させ、「港区ファン」になってもらうことを念頭に置きました。区外にも「港区ファン」が増えることが、ひいては港区民の自負や愛着につながり、更に区の魅力が向上すると考え、提言をまとめました。

いずれの提言も、産業振興に関するものですが、区民にも還元され得る内容だと考えます。この提言が令和3年度からの港区基本計画に反映され、計画推進の結果、令和8年度には世界都市MINATOが実現されることを期待しています。

提言の体系

テーマ	提言内容（具体的な事業）
港区の強みを生かした産業振興	「デザイン」をテーマにした連携機会の創出
	暮らしを支えるビジネスの促進
	区内の「ものづくり」のPRと活性化
	区内に存する多彩な資源の発掘及び活用
シティプロモーション	区内への誘客と回遊を促すPRの充実
	SNS等における情報発信の強化
	ルートやインセンティブ設定等による回遊の促進
	「港区にいる」ことを意識させるデザイン面での取組

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ① 港区の強みを生かした産業振興

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりで人がつながるまち MINATO」

港区は、今日の日本をつくりあげた歴史を残すとともに、世界をリードする企業が集積し、多彩な人々が住み、働き、訪れるまちである。新しい時代における「デザイン」「ものづくり」「情報発信」を活性化するとともに、港区に『住み、働き、訪れる人々』をつなぎ、そして過去と未来、港区と全国各地と世界をつなぐことによって、新たな産業や価値、ビジネスチャンスを生み出すことができる都市を目指す。

実現に向けた課題

- 人的資源・知的資源、ストック等の資源が十分に認知・活用されていない。
- 商店街の存在等、地域をつなぐ資源が認識されていない。
- 区民の暮らしやすさ、地域のつながりを支える産業が熟していない。
- 住む人（区民）、働く人（在勤者）、訪れる人（観光客）同士のつながりがない。

取組の方向性

- 区内の企業に蓄積されるデザイン・ものづくり・情報に関するノウハウを活かし、区内に蓄積する人材、自然、歴史等のリソース、そして多様なストックをつなぎ、区内の産業や地域を活性化させる。
- 港区に住み、働き、訪れる人々の垣根を越えた交流を生み出すことで、区民の暮らしやすさや観光客の楽しさを創出するとともに、区内企業等、様々な主体のビジネスチャンスの増大につなげる。

具体的な事業

「デザイン」をテーマにした連携機会の創出

港区の強みである「デザイン」分野に注力した区内の企業を中心とした産学官の多様な団体、また国内外の団体との連携を構築し、イノベーションを生み出す機会をつくる。

(事業例)

- ・港区産業コンペティション等の開催
- ・デザイン分野の企業と連携し、区内小中学生等の就労体験の機会をつくる。

暮らしを支えるビジネスの促進

商店会等、買い物をはじめ、医療・福祉等、区民等の生活を支援するビジネスを支援する。

(事業例)

- ・一般診療所数や医師数が多い港区の強みを生かし、生活支援につながる医療産業等に関する中小企業のビジネス活動の支援を行う。

区内の「ものづくり」のPRと活性化

伝統と新規性のある区内の「ものづくり」に着目したアンテナショップや、区内の「ものづくり」の発信等を通じて新たな「ものづくり」を活性化させる。

(事業例)

- ・港区のものづくりを紹介するアンテナショップや商店街の名店・名産を紹介するイベント等を開催する。
- ・港区内の伝統的なものづくりを受け継ぐ職人等のPRを通し区内産業の情報を発信する。

区内に存する多彩な資源の発掘及び活用

住み、働き、訪れる人々にとって魅力となり、区内に人を呼び寄せ、また人と人をつなぐ資源（公園、坂道、文化施設、商業施設等）を見出し、それらを有効に活用し、区内産業の活性化へつなげる。

(事業例)

- ・港区の魅力ある場所・店を案内するアプリ等のツールを創出する。
- ・在住者（特に外国人）や在勤者等が暮らすなかで気づいた港区の魅力を発信する仕組みをつくる。
- ・区内在住・在勤者、来街者と連携し、区内の観光資源をつなぐ新たな観光ルートを開発する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 区民、在勤・在学者、来街者、また区内企業を産業振興に関する人的資源と捉え、様々な主体が事業に参画する機会を創出する。
- 知識やキャリアを有する区民が、それぞれの得意分野を生かして区の事業に参画する。
- 観光ボランティアに加え、区内の産業の歴史やものづくり、技術を紹介する、産業に特化したボランティア（産業ボランティア）等の活動を支援する。

テーマ② シティプロモーション

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「訪れる人がみな、港区ファンになる魅力あふれる観光都市 MINATO」

港区には様々な観光資源があり、魅力的なまちが多数ある。それらを核としながら、埋もれた観光資源を掘り起こし、つなげ、障害の有無に関わらずだれもがアクセスしやすく、回遊することができるまちを目指す。そして、港区のシティプロモーションを区内在住・在勤・在学者等あらゆる主体が推進することで、その存在が世界で知られ、愛される「港区」となる。その結果、区民が港区に愛着を持ち、誇りに思えるまちを目指す。

実現に向けた課題

- 六本木、青山、赤坂など、個々のエリアは国内外で知られているが、「港区」としては十分認知されていない。
- 多様な観光資源があるが、つなぐことができず、区内を回遊する人が多くない。

取組の方向性

区内に点在する豊富な観光資源の魅力を発信し、それらを巡る回遊性を高めるとともに、観光資源や区内エリアを訪れる人に「港区にいる」ということを意識づけるシティプロモーションを展開する。

具体的な事業

区内への誘客と回遊を促すPRの充実

空港、鉄道や港などの交通拠点において、港区に訪れようと思わせるプロモーションを展開する。その際には訪日外国人向けに多言語での発信も行う。

(事業例)

- 交通拠点でのデジタルサイネージを利用したPR
- 区外の交通拠点で複数自治体が連携したPR

SNS等における情報発信の強化

区内外で活動する様々な属性の「インフルエンサー」^{※1}を活用し、港区の魅力をSNSで発信し、口コミを広げ、「港区」に関心を持つ人を増やしていく。

(事業例)

- 港区に根差した観光大使を活用したPR展開
- 若者等、ターゲットを明確にした情報発信主体の発掘・活用

ルートやインセンティブ設定等による回遊の促進

「港区」を感じることでできる観光ルートをつくり、ハード（交通手段）とソフト（資源の磨き上げやガイドの充実）の両面におけるバリアフリー化の強化に加え、回遊を動機づける仕掛けを講じることで、区内における回遊性を高める。

(事業例)

- 交通事業者、観光事業者と連動したバスツアー等の実施
- スタンプラリー等、回遊を促すインセンティブ^{※2}づくり
- 回遊時に「港区」の魅力を説明できるボランティアの育成・活用
- 短時間で手軽に参加できるツアーや、所要時間に応じた観光案内

「港区にいる」ことを意識させるデザイン面での取組

区内のエリアや観光資源において共通のビジュアルアイデンティティ^{※3}を採用するなど、現在訪れている場所を「港区」であると意識させる工夫を行う。

(事業例)

- 港区ならではのビジュアルアイデンティティやキャラクターのデザインを区民参画でつくり、公共空間や商店・飲食店、グッズなどでの利用を促す港区ならではのシンボル^{※4}を選定し、PRする。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 観光ボランティアの活躍の場を広げ、ボランティアによる解説付き回遊ルートをつくる。
- ツアーコンダクター等、旅行業に知見のある区民の観光ボランティアへの参画・協働を生み出す仕組みを設定し、インバウンドを含む多様なゲストを十分に楽しませるツアーを提供する。
- バス事業者等とタイアップし、区内をバスで回遊するツアーを実施する。
- 外国人や若者等、多様な属性の区民を観光大使として登用し、生活者目線の魅力をSNS等で発信する。

※1 インフルエンサーとは、発言や情報発信が世間に与える影響が大きい人物をいう。SNSの普及により広報活動に活用されるようになった。ここでは、信頼でき、かつ関心を喚起する情報を発信できる人が港区に関する情報を発信することを想定している。

※2 インセンティブとは、人にある行動に向かわせるための動機となるものである。買物に付随するポイントやスタンプラリーが例となるが、ここでも同様の仕掛けを想定している。

※3 ビジュアルアイデンティティとは、ロゴやシンボルマークなど、企業や組織、まちのブランドイメージを表現したものである。「I ♥ NY (アイ・ラブ・ニューヨーク)」は、アメリカ合衆国のニューヨーク州の観光PRロゴとして1977年にデザインされ、ニューヨークのシンボルマークとして様々な商品やグッズに展開されている。ここでは、「I ♥ NY」のようにデザイン性が高く、商品展開力があり、愛されるものを想定している。

※4 ここでは東京タワーやレインボーブリッジのような、一目で港区と分かる象徴的な建造物を想定している。そのような建造物もブランドイメージになると考えている。

開催経過

第6グループ【産業・観光分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月19日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局紹介 ・グループ会議の進め方について ・分野における現状と課題について ・リーダー、サブリーダーの選出 ・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月9日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会議のスケジュールについて ・前回の振り返り ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」について
第3回	令和元年10月23日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会議のスケジュールについて ・前回の振り返り ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」について
第4回	令和元年11月19日(火) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」について ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」の提言について
第5回	令和元年11月27日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会議のスケジュールについて ・前回の振り返り ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」の提言について ・検討テーマ「シティプロモーション」について
第6回	令和元年12月11日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会議のスケジュールについて ・前回の振り返り ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」の提言について ・検討テーマ「シティプロモーション」について
第7回	令和元年12月25日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・検討テーマ「シティプロモーション」について ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」の提言について
第8回	令和2年1月30日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・検討テーマ「港区の強みを生かした産業振興」の提言について ・検討テーマ「シティプロモーション」の提言について ・提言式について



みなとタウンフォーラム
第6グループ
産業・観光分野

港区基本計画の策定に向けた

提言

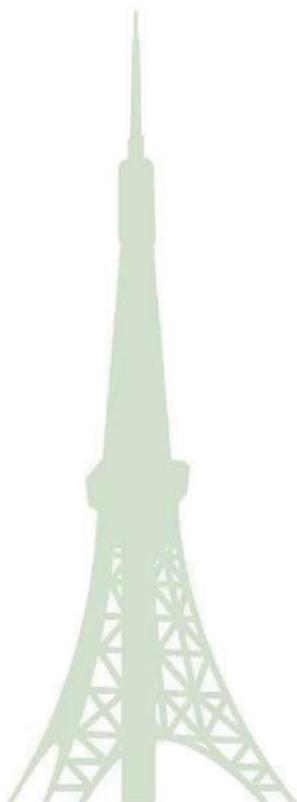
メンバー

井上 正広 大塚 珠真子

小林 典子 浜田 拓郎

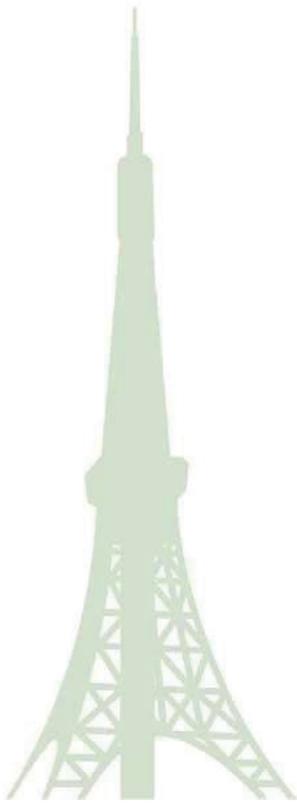
堀山 正雄 松浦 正明

他 1名



提言にあたって

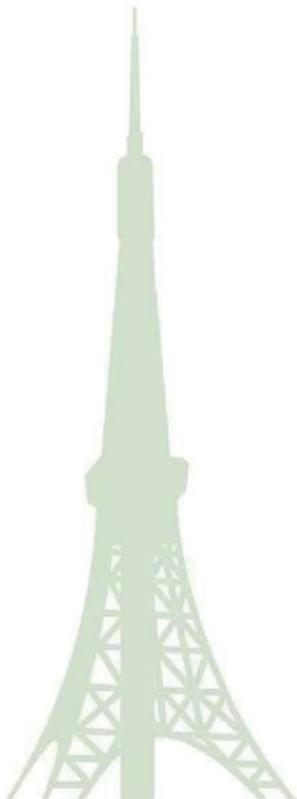
港区愛

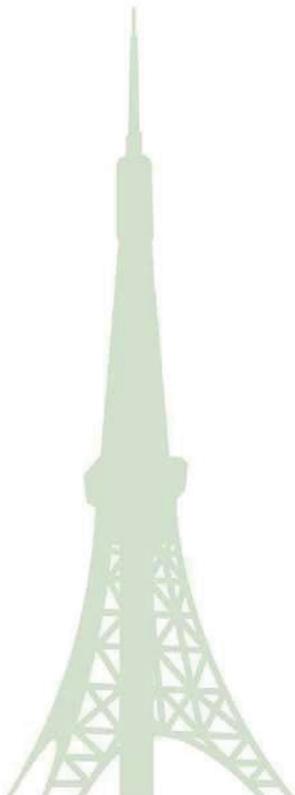


将来像

未来の歴史をデザインし、
技術と伝統のものづくりで
人がつながるまちMINATO

テーマ 1
港区の強みを生かした産業振興





具体的な事業

「デザイン」をテーマにした連携機会の創出

暮らしを支えるビジネスの促進

区内の「ものづくり」のPRと活性化

区内に存する多彩な資源の発掘及び活用

テーマ 1

港区の強みを生かした産業振興

参画と協働



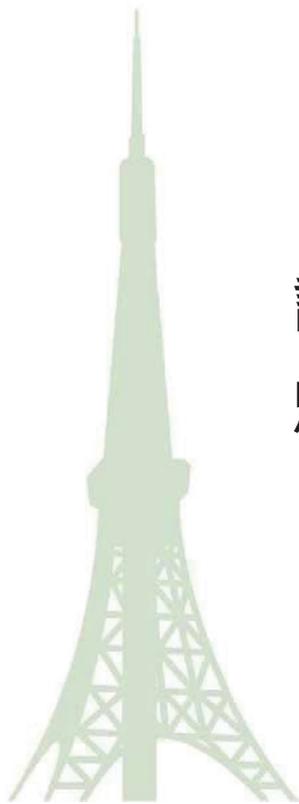
区民、在勤・在学者、来街者、区内企業を
産業振興に関する人的資源と捉え、
様々な主体が事業に参画する機会を創出

知識やキャリアを有する区民の得意
分野を生かした区の事業への参画

産業に特化したボランティア
(産業ボランティア)等の活動支援

テーマ 1

港区の強みを生かした産業振興



将来像

訪れる人がみな、港区ファンになる
魅力あふれる観光都市MINATO

テーマ2
シティプロモーション



具体的な事業

区内への誘客と回遊を促すPRの充実
SNS等における情報発信の強化
ルートやインセンティブ設定等による回遊の促進
「港区にいる」ことを意識させるデザイン面での取組

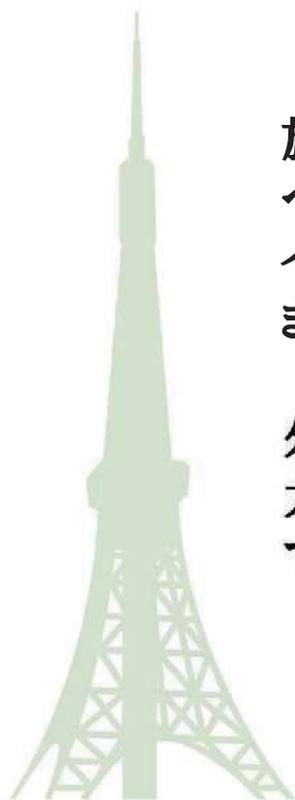
テーマ2
シティプロモーション

参画と協働

旅行業に知見のある区民の観光ボランティアへの参画・協働を生み出す仕組みを設定し、インバウンドを含む多様なゲストを十分に楽しませるツアーを提供する。

外国人や若者等、多様な属性の区民を観光大使として登用し、生活者目線の魅力をSNS等で発信する。

テーマ2 シティプロモーション



みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年9月19日（木）18時30分～20時30分

会場：港区役所5階 512会議室

メンバー：6名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 リーダー、サブリーダーの選出
- 5 検討テーマの選定
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
4	グループ会議の進め方について
5	検討希望テーマ集計結果

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

1 事務局紹介

事務局が、資料1に基づき事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

事務局が、資料2に基づき、検討スケジュールの説明を行った。

事務局が、資料3に基づき、提言の構成についての説明を行った。

事務局が、資料4に基づき、会議の運営手法についての説明を行った。付箋を用いた進行とホワイトボードを用いた進行を説明し、参加者によってホワイトボードを用いた進行を中心として付箋を併用する進行が選択された。

(主な意見等)

参加者：ホワイトボードを中心に利用して議論するのはよいが、発言しにくい場合にはポストイットも併用できるとよい。

事務局：承知した。

参加者：各テーマにつき2回という割り振りは少ないと思うので、メーリングリストなどを活用して議論ができるとよい。

参加者：会議で言い忘れることもあると思うので、ぜひお願いしたい。

事務局：テーマの数を絞ることでテーマあたりの回数を増やすことも可能だが、ICTの活用についても検討し、次回の会議にて回答したい。

3 分野における現状と課題について

事務局が、区の産業振興及びシティプロモーションに関する取組について説明を行った。

4 リーダー、サブリーダーの選出

事務局がリーダー及びサブリーダーの役割の説明を行った後、参加者がリーダー及びサブリーダーの選出を行った。

5 検討テーマの選定

事務局が、資料5に基づき、検討テーマの集計結果を示した。

(主な意見等)

事務局：集計結果を踏まえると「港区の強みを生かした産業振興」と「シティプロモーション」となるので、この2つのテーマにしてはどうか。ただ、全体会では買い物環境が課題であるという意見もあったので、「魅力的な商店街づくり」もテーマにする必要はあるか。

参加者：港区の強みを生かした産業振興の一部に商店街振興を含むことはできないか。歴史的なお祭りや商店街の関係は深いので、強みのひとつと言えるのではないか。

参加者：港区には創業100年を超える老舗があるが、それらは観光資源のひとつになる。また、

港区は住民と在勤者、そして観光客を一体化するような取組があってもよいと思うので、観光と商業を組み合わせて議論できるとよいと思う。

事務局：産業振興という枠組みのなかで観光と商業を話し合った方がよいか。それぞれを別のテーマにすると、観光は来街者、商業は区民という風に分かれてしまうので適当ではないと理解してよいか。

参加者：そのように理解してよい。

参加者：台場エリアには商店街はないので、他のエリアの商店街には憧れるところがある。

参加者：麻布十番などは商店街でもあり、観光地でもある。麻布十番まつりは以前から外国人の方も訪れている。

参加者：先ほど紹介のあったホテルに置いてあるパンフレットに商店街のことが取り上げられていたら、行きたいと思う人もいるのではないかな。

事務局：これまでの意見を踏まえると、「港区の強みを生かした産業振興」と「シティプロモーション」という2つのテーマになると思う。ただ、提言をいただく場合には、テーマに沿って将来像を提起しないといけないので工夫は必要だと思う。

参加者：港区は都市とまちが混在していることが特徴だが、それぞれが融合していくとよいのではないかな。ヨーロッパのようなまちになるとよいと思う。

事務局：テーマを2つにすると、1つのテーマを2回で話そうとすると会議日程は余ることになる。議論に余裕ができるので、思い切った議論ができるのではないかな。先ほど事務局より、特別区である港区が産業振興を行う理由は何かという問題提起をしたが、その回答を見出すような議論ができるかもしれない。難しいかもしれないが、日程的に余裕があるので、このテーマに取り組んでみてはいかがかな。

参加者：産業振興という広いテーマの方が議論を限定しなくてもよくなるなら、それがよいと思う。

リーダー：みなさんもよろしいかな。

(一同了解)

リーダー：それでは、「港区の強みを生かした産業振興」と「シティプロモーション」という2つのテーマに決めることにする。

残り時間を使って自由に議論したい。自分は、港区の商業・観光はともすれば民間企業がイニシアティブを取ってしまう。それは来街者が楽しむかぎりのものなので、区民参画の余地を残したい。それが商店街振興や老舗への着目なのではないかなと思う。

参加者：最近、港区では南側の方で開発が盛んだが、北側のエリアはそうではない。早くから開発されたからだが、老朽化が進んでいることが気になる。結果、港区の中心部が南の方に移っていると感じる。ただ、創業100年の老舗も含めて、歴史的な部分も発信すると深みのある魅力が打ち出せるのではないかな。

参加者：地区別の住民の年齢層を把握することはできるかな。

事務局：情報としてはあるので、何らかのかたちで提供したい。

リーダー：いま指摘のあったような南北での違いは実際にあるのかな。

事務局：赤坂・青山エリアは以前から開発が進められていた一方、港南や芝浦は最近のことである。そのためエリアによって人口の増減に違いがあることは確かだと思う。

リーダー：港区では、区内の創業100年以上の老舗について統計を持っているのかな。

事務局：統計はない。芝地区には芝100年会という組織があり、地区内の100年企業をネットワークしている。

リーダー：港区では民間企業が再開発事業を積極的に行っているが、港区で観光振興をしても税収として反映されない。そのような状況での観光振興のインセンティブとは何かが気になる。産業振興ももちろんである。

事務局：商店会は、安全・安心等の地域の取組にも協力をいただいている。マンションが増えているなかで住民同士のつながりが薄くなっている。それに対して商店街には地域のコミュニティの機能があると思うので、その点に重きを置きたいと考えている。

事務局：近年の再開発事業は地域貢献を重視するようになってきている。地域の人々とまちをつくっていかうという姿勢もあるので、区としても関係構築を考えているところである。

参加者：それが区のできることだと思う。それがないと民間の営利活動になってしまう。

事務局：先ほど人口の件で意見があったが、統計データを参照いただけるよう、次回の会議からは区政要覧等の資料も資料として準備したい。

リーダー：次回だが、どちらのテーマから取り組むべきか。

参加者：これまでの意見交換を踏まえると、回数の余裕があるうちに「港区の強みを生かした産業振興」を話し合った方がよいのではないか。

リーダー：確かに難しい方のテーマから取り組んだ方がよい。次回から「港区の強みを生かした産業振興」について話し合いを始めたい。

6 その他

次回の開催日程は、10月9日とすることを確認した。

(閉会) リーダーが第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月9日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所5階 512会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 グループ会議のスケジュールについて
- 2 検討テーマの振り返り
- 3 検討テーマの強みと弱みについて
- 4 将来像について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	グループ会議の検討スケジュール
2	議論の前提とこれまでの意見
3	提言の構成について
4	ここからはじまる物語（港区政要覧2019）
参考資料1	第1回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

(主な意見等)

参加者：議事録に個人名を出さない理由は何故か。

事務局：記名になると発言を躊躇することもある。また区民の皆様の目に触れるものなので、無記名の方がよいと思った。

参加者：発言に責任を持つためには記名がよい。また、自分の意図したことと異なる記録のされ方をした場合も発言者名が記されていれば確認できる。

事務局：公開用の議事録は無記名にするが、確認いただく際は記名にする。

1 グループ会議の検討スケジュールについて

事務局が、資料1に基づき「グループ会議の検討スケジュールについて」説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：今回欠席した方に対して議論の流れをどのようにフォローするのか。

事務局：議事録のほか、資料2のようなかたちで会議での意見をまとめた資料を作成する。また、毎回会議の冒頭に前回の会議での意見交換をふり返る。

参加者：メールでの情報共有についてはいかがか。

事務局：みなさんの了解がいただければ、全員のメールアドレス宛てに意見を送るようにしたい。

2 検討テーマの振り返り

事務局が、資料2に基づき「検討テーマの振り返り」の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：「ビジネス経験が豊かな区民が多数住んでいる」とあるが、30年以上前から港区には外国人経営者が多い。レストランオーナーなど、昔港区で創業し、成功している人たちに話を聞いたらよいと思う。

参加者：課題に追加してもらいたいことがある。ICTの活用によって国際化を図るなどと計画には書かれているが、港区観光協会のホームページには連絡用のメールアドレスが公開されていない。グローバル化に対応するペースが遅い。

リーダー：昔から住んでいる外国人オーナーの意見を聞く、あるいは新しく港区に来た人の新鮮な意見を吸い取るような仕組みが必要ということだと理解した。そのような仕組みが区のよいところにつながるのではないかと、ということを補足されたい。

3 検討テーマの強みと弱みについて

事務局が、検討テーマの強みと弱みについて説明を行った。

(主な意見等)

参加者：港区観光協会のホームページは魅力に欠ける。自動翻訳の英語はおかしいので、改善す

べきだ。港区には様々な人材がいるが活用しきれていない。人材を活用するマネジメント能力の強化も必要だ。

リーダー：歴史や地区の特徴など、何でも知っている人がボランティアをやるものなのか。

参加者：港区は自分でやるといえば誰でもできるの。ただ、そのため個人差が大きい。

リーダー：ガイドの中でも地域で分けたり、詳しい分野でセグメント別になると、参加しやすいだろう。

参加者：ものづくりに関してだが、港区では実際に製造しておらず、本社だけが立地しているのがもったいないと思う。港区に本社のある製造物のアンテナショップ等があると、ブランドに貢献できるのではないか。老舗の企業や商店街をアピールしてもよい。港区はものづくりをする企業が少ないから、支援が少ないとも聞く。ものづくりしやすい環境やプラットフォームを整えて、外国人向けには観光資源として見せるのもよい。

参加者：デザインが強い企業が集積しているように思う。デザインをするのは本社組織だから、港区はデザインを1つのキーワードにすればいい。先端的だが、ファッション性のあるものも出てくる。「ベイサイド・デザイン・ディストリク」ができたらいいと思う。

参加者：もともと区の北部はデザインが特徴であった。当時は何もなかった南部に新しくつくるとなれば、異業種がいっしょになることができると思う。新しい港区がどうあるべきかを考えるとともに古い魅力も残すことで、いいものを残していくべきだ。

リーダー：それは自然発生的にデザイナーがたまたま集まりつつあるのか。

参加者：いまは渋谷の方に若手が吸い取られている。放っておくとファッション関連のデザイナーの集積もまずいのでは。

参加者：デザイナーの高齢化があり、70~90代の人が次世代につなげなかった。ミッドタウンを中心にしている若い人と、古参の表参道のデザイナーが結びついていない。

参加者：ものづくりは人手不足、後継者不足、高齢化などの問題ばかりだが、産業振興センターをワンストップセンターのような拠点にし、マッチングなどの支援をして次の世代に伝えていけばいい。

参加者：産業振興センターのそばに民間のイノベーションデザインセンターができる。田町には大学、高校もあるので、産学連携ができるとよいと思う。

リーダー：デザインを考える上では、大使館なども多い国際的なまちだからインスパイアされるものもあるのではないか。

参加者：デザインをキーワードにしたものが、どんどん港区に集まってきているので、大事にした方がよい。

リーダー：デザイナーの知見を活用すれば、産業振興と地域振興、商店街振興、老舗の復興みたいなものにもつなげられるか。

参加者：国際的なコンベンションやミーティングをやるとよいと思う。予算の問題はあるが、コンセプトと意識づけは必要。

参加者：国際性というところで、港区には大使館が山のようにある。大使館の人々は港区内に住んでいるので、そういう人たちと交流できるようにするといい。

参加者：大使館巡りは日時が限定的で、行けないことが多いのが難点である。

参加者：港区の商店街を活性化するために、勤務している大使館の方に、港区の商店街のおススメ料理の紹介などしてもらえると良い。

リーダー：人材を活用できていないということだろう。個人的な意見だが、自転車で通ると分かるが、港区の魅力の1つは坂道だ。日本で一番ホテルの集積率も高いので、それらを組み合わせるとナイトウォーキングのようなイベントはできないか。港区は治安もよいし、夜は綺麗な夜景が見えるのでモデルコースをつくといい。

あと、港という漢字は、「水」「共」「己」で構成されていることから、「水」と「私」と絡めた売り出し方がないのか、と思う。水は人を集める力がある。再開発の際にでも、デザイン的に優れた、人の集まる泉が欲しい。

参加者：港区はIT産業が他の区より多い。テレビ局もあり、世界に向けて情報を発信する場所だ。

参加者：同じようにIT企業の多い渋谷と差別化したい。

参加者：港区は3つの区が集まってできた区で、本来古い中心地である。渋谷に集まる人が新しい若者のまち渋谷をつくったが、港区は江戸時代から古い歴史がある。

参加者：渋谷のワンダーコンパスという東急電鉄と組んでいるインフォメーションセンターはすごく魅力的で、多言語対応もできている。港区には東京メトロがあるので、コラボできるとよい。

参加者：ちいばすという高齢者のためのバスが走っているが、最近若い人やサラリーマンがタクシー代わりに使うので、とても混んで高齢者が使いにくくなっている。

参加者：全国で観光客が増えすぎて地元住民が困るという問題も出てきているが、港区はまだそうではない。商店街を紹介することに重きをおいた、まちあるきルートの開発やガイドをできるとよい。観光ボランティアと商店街の人が勉強会や事前の下見をするべきだ。

参加者：昨今ネットが盛んになっているが、実際に話すというアナログは非常に重要。提言が出たことを、具体的、直接的に聞いて、次の会に提言することを意識的に考えるだけでも違う。

事務局：提言では、具体的なアクションについて書き込んでいただくが、そのアクションにあたっての将来像も書く必要がある。将来像を掲げたときに、その実現に向けた障壁が何かを定義し、その障壁を乗り越えるための方向性とアクションを設定したい。もちろん将来像に沿って話し合ううちに、将来像とは合致しないアクションを行うべきであるという話になれば、アクションにあった将来像を設定すればよいが、まずは将来像からのトップダウンで考えていきたい。

将来像の書き方も色々あるが、課題を手当てするような書き方、よいところを高めていこうというポジティブな書き方がある。どちらがよいか、意見を聞きたい。

参加者：計画をみると、ほぼすべてのことはもうやってくれているので、もっと伸ばして頑張ろうという方がポジティブだと思う。

リーダー：課題を根掘り葉掘りしたところで、マイナス思考で終わってしまう。

4 将来像について

(主な意見等)

リーダー：デザインではとんがった人たちが世界から集まってくるようなものが実現するとおもしろくなる。無礼講で様々なことができるとうい。港区に特区みたいなものがあるって、良俗

に反しないかぎり、思い切ったことができるよ。

参加者：デザインという切り口はよいが、将来像の下のレベルにある言葉ではないか。

参加者：ものづくりはどうか。デザインだけでなく産業と観光にもつながる。

リーダー：デザインは手段ということか。ある程度の目標に対する1つの手段が、強みとしてのデザインであるということか。

参加者：デザインという言葉は色んな使われ方をする。「港区をデザインする」といったら、港区は将来こういう区でありたいという意味になるので、むしろ先に進んでいるイメージになる。

リーダー：進んだまち、先端、とんがった、クールというようなイメージが出ているように思う。

参加者：今後の日本の高齢化や福祉の問題も含めて、港区がトップである、先端で行くということを目指していくべき。田町のまちづくりにはそれが全部入っている。

参加者：港区は日本や世界をリードするような世界都市になっていくということ。それだけの自信を持ってやっていく気持ちが大事。

参加者：世界の先端を走っていくのに、一番必要なのはオリジナリティと多様性だ。そこに歴史の土台を含めたものが、港区の武器になっている。港区の中にはたくさんの価値が眠っているはずだ。

リーダー：掘り起こしていけば金脈になる。

事務局：渋谷や他区とどう違うのかというのは、眠っている資源、歴史に根差した資源みたいなものは多分港区の方が優位だと思うが、金脈に当たっているのか当たっていないのかよく分からない。

北部に集積していたというデザインは個のデザイナーだったと思う。一方、今回議論になっているデザインは企業の中のデザインである。マーケットに組み合わされたデザインやイノベーション、ものづくりといってもいいかもしれない。産業の中で領域を確保したクリエイティブだと思う。

参加者：将来像のキーワードに「交流」は入るか。

事務局：異業種はキーワードとなっていると思うが、交流という言葉は明確ではなかったので追加したい。

リーダー：世界をリードする。オリジナリティ。トラディショナル。このあたりを踏まえると、英知とクラシカルが出会う地域になっていけばいいというような感じか。

参加者：資源や歴史の中には神社仏閣が多い。有名でなくても麻布辺りには山のようにたくさんの寺があり、それぞれ由緒があるので、詳しく調べれば財産だと思う。

リーダー：出会うまち、と、しつこいが「共」に。

参加者：坂道にそれぞれ名前がついて由来がある。

事務局：坂も資源である。大使館も資源だが、相当使いにくいと思うが、そこに住んでいる人が生活者として何か発信してくれるのなら良い。

参加者：近所のイタリアンレストランには定期的にイタリア大使館の方が、赤坂のドイツのレストランにはドイツ大使館の方が来る。ずっと昔からそうだということなので、区とうまく連携ができれば普通の人でも交流できると思う。

参加者：部会が別だと思うが、国際交流とも絡む気がする。

事務局：手段としては絡むと思う。出口が産業振興なら、あとで切り分ければよい。

- 参加者：日本に来てくれることだけが観光ではない。こちらに来てくれると同時に、こちらからも行けるよう、相互に観光に活かされるような窓口がオープンになるといい。
- 参加者：資源に公園は入っているか。外国に比べると活用されていない気がする。
- リーダー：日本の公園は活用しにくい。
- 参加者：東京ミッドタウンの中の緑地は活用されている。
- 参加者：海外からくる人は港区内のホテルは利用するが、すぐ地方へ出ていってしまう。港区にお金は落とさないで、港区に来た人をもっととどめる必要がある。
- 参加者：東京タワーに行った後、浅草かどこかへ行ってしまおう。
- 参加者：せっかく資源があるのに活用しきれないということだ。東京タワーは港区の東京観光の目玉の一つだが、浅草もまた人気スポットだから、そことうまく連携して、港区にお金が落ちる仕組みをつくれるといい。
- 参加者：眠っている資源がたくさんあるから、もう少し活かしてほしい。
- 事務局：デザインとものづくりに何か加えないと、観光振興になりにくいのではないかな。
- 参加者：戦略的に何かを打ち出していくなら、デザインという切り口から人を呼びこんでこれる何かを仕込んでいくしかない。
- 参加者：世界最先端を行くなら、新しいものと古いものとをどうやって結びつけるかを考える必要がある。また、それが観光になると思う。
- リーダー：先ほど公園の話があったが。みなと図書館に行っても芝公園を歩こうとは思わない。ヨーロッパやアメリカの公園と違って、日本の公園は全部周囲を木や柵で囲い、出入り口が限定されているので使いづらい。芝公園を改造し、企業が集うプラットフォームでもつくり、かつ土日でもホテルに宿泊している旅行者がお金を使わずに楽しめる空間ができるとよい。
- 参加者：港区全体がデザインとアートやカルチャーの区ということにして、まち全体がアートシティみたいになっていくとよい。坂と公園をうまく組み込めるとよい。
- 事務局：旅慣れた外国人はローカルのもので楽しむ。港区は資源が大きすぎるので、もう少しローカルなものがあると良い。
- 参加者：交流というところで、「生活するように旅をする」感じで、旅行者が普通の生活の港区民と交流しながら、そのものが観光になると良い。
- 参加者：私は旅をするように生活している。外国の社長もそういう考えで、たまたま40年日本にいるが故郷はイタリアだ。そういう人の話を聞いてみたり、紹介してみると良い。
- 参加者：港区に長く住んでいる外国人の声みみたいなパンフレットはあるのか。
- 事務局：それだけでまとめているわけではないが、ホテルの客室に置いたり、区政要覧には載せている。
- 参加者：SNSの口コミで情報が広がることがあるから、そういうツールも使うべきだ。
- リーダー：ある程度今日の段階で、強みの部分においていくつか軸となるイメージキーワードをつくっていききたい。
- 事務局：キーワードは絞り込まれてきている。公園、歴史など、キーとなる言葉があった。
- 参加者：歴史と新たなデザインが融合するまちで、そういった資源を使ってそれをプロモーションできるし、人を誘導する意味では水や公園を使って、人を呼び込み、観光につながるとよい。

事務局：産業振興がちょっと強いと感じる。観光につながらないわけではないが、もう少し考えたい。ものづくりも新しいものもあれば、老舗に蓄積された技術もあるので、そういったものが触れられると良い。燕三条の工場フェスなどで見学ができる。

参加者：外国人は日本のものづくりを見たい人が多いので、見本市や展示会に人が多く集まる。

リーダー：三条市では工場の上のギャラリーに多くの人が訪れるという。

参加者：仮決めしておいて修正することは可能か。

事務局：今日話していただいた内容を踏まえ、みなさんで将来像を考えていただきたい。短くても長くてもよいので10月17日までにメールで案を出してほしい。それを元に将来像を設定し、次の取り組みの方向性などに進みたい。現状の弱みはたくさん出たが、将来像は強みを活かすものであり、それに向けた課題なので、その視点で次回は話し合っただきたい。

5 その他

次回の開催日程は、10月23日（水）とすることを確認した。

（閉会）

リーダーが第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月23日（水）18時30分～

会場：港区役所9階 913会議室

メンバー：6名（1名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 グループ会議のスケジュールについて
- 2 検討テーマの振り返り
- 3 将来像について
- 4 課題と施策の方向性について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	グループ会議の検討スケジュール
2	議論の前提とこれまでの意見
3	将来像に対するご提案まとめ
4	提言の構成について
参考資料1	第2回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

事務局が配布資料の確認を行った。

1 グループ会議の検討スケジュールについて

事務局が、資料1に基づき「グループ会議の検討スケジュール」について説明を行った。

2 検討テーマの振り返り

事務局が、資料2に基づき「検討テーマの振り返り」の説明を行った。

3 将来像について

事務局が、「将来像について」説明を行った。

(主な意見等)

参加者： 令和8年の港区のイメージをまず描き、その際に皆さんのこの間の意見を集約すると、人口も増えるし、更に発展すると、非常にいいイメージを持った。そのうえで具体的にどういう風な、産業、観光と分けた場合に、新しい産業が実際に起こしうるかということまで考えた。その際に、今は南部の方になったグランドデザインは中心になると思う。一方かつてデザイン的に先端を走っていた北部は高齢化が進み、リタイアした方が増える。人生100年時代と言われるが、少し前は60過ぎたら定年だったが、まだまだこれから頑張らなくちゃいけないというような方が、本当に安心して未来に向かっていく都市で、生活できるかどうかということは、一番重要な問題だと思う。産業の中に一番重要なものは医療や福祉、介護の分野。産業の1つとして、新しい世界に発信できるような医療とか産業を興し、そういうものが、いわゆる福祉と切り捨てられたりするのではなく、港区の新しい高齢化社会のデザインを描けるような産業が興せて、しかも区がそれに対してバックアップが出来れば、安心して住み続けられると思う。

リーダー：確かにヘルスケアという切り口というのは産業振興の1つの醸成にはなると思う。それだけである意味人を引き付ける磁力を持った考え方ではないかと思う。

参加者：たまたま今港区は栄えているが、果たしてどこまで続くか。災害でインフラが壊れたりするもろさは持っている。先ほどの医療、福祉、介護や大学等、そういう資産を減らさないように、更にそれを進めていって、港区には多様性があるなど、外部から人が流入してくるような、魅力ある都市であり続ける必要がある。本社があっても情報の部分でしかなく、港区に定住する人の集まりなのかどうか、という恐れがある。住民が定着化できるようなまちづくりをしてほしい。

参加者：資料3の案に、一般の区民ではなく、ビジネスの分野で活性化の将来像があると思う。東京でこんなにも開発案件数があるのは港区くらい。地方や地域との連携をもう少し発展させると良い。港湾都市として東京はシドニーと同じように進化してきているが、普通の人々が住みやすい、バランスの取れたまちになっていくべきだ。倍増というのは、単に国際会議ということではなく、そこに人が集まれば港区としても潤うということだ。外資系ホテルや国内3大ホテルの1つもあるので、区としてもオリパラに備えて情報交換

をすべき。

参加者：私たちがやっているのは令和8年に向けてのことだから、オリパラに向けてはもう具体的にやっていると思う。オリンピック後の産業を見据えるべき。

参加者：区内のホテル間同士だと競争になるが、区長が絡めば協力できると思うので、事故が起きないように交流会や会合は、港区としては行うべき。連絡、意思疎通がもっとスムーズになれば、自分たちも安心して利用できるようになる。

リーダー：この3つの案を集約して言葉にまとめるとどうなるか。

事務局事務局：生活とビジネスのバランスみたいな。

リーダー：ビジネスというところに、特徴あるホテルやデザインが絡んでくる。

参加者：私が言ったのは1番上で、要は伝統がある商店街やものづくり、ブランドがある港区を目指すには、本社ばかりで実際のもものづくりは地方にあるが、それを繋ぐまちとして、もっと売り出したい。デザインやスマートという言葉はテクノロジーを連想してもらうために入れた。古いものと新しいテクノロジー、港区と地方が繋がるような、ハブ的なブランドができると良い。

参加者：青山1丁目に全国の伝統工芸の店があるので、一度行ってみると良い。

参加者：時々職人が直に来て、デモンストレーションを行っている。

リーダー：セレクトはどこがやっているのか。

参加者：伝統工芸青山スクエア。代表は多分NPOの方だと思う。

リーダー：イメージとしては、これをもっと港区全域に拡大する感じで、古いものと新しいもの、地方と東京、あるいは東京と世界を繋ぐビジネスハブ機能を全面に押し出しながら、全体を振興させていくというようなイメージか。

参加者：芝浦のスポーツクラブに見学に行った時、全国から集めた木を使って、建物を作っていた。港区と全国とのネットワークで集めた木材を使っていたということなので、あれを1回限りではなく、港区全体にもっと広めるべき。

参加者：私は案2を出したが、皆さんの意見を集約したもの。港区にはもっと歴史がある、デザインディストリックを作りたいというアイデア、水のこと、それらをまとめただけ。産業としてはデザインを大きな柱にしたつもりだったが、福祉や医療が出てきた。私たちの議論として、全てのどの分野においても港区はこじつけできる。私たちの中でどれを主要にするかを最初に決めておかないと、キャッチフレーズも決まらないし話も進まない。個人的には港区の産業の中心は観光にしたいが、議論の中でデザインということであれば、それはそれでよい。

参加者：産業と観光と2つ分野がある。観光は1つの産業だが、この2つを分けた場合、どちらに重点を置くか。産業をどう興していくかということと、世界の観光の先端として果たす役割を一緒にするのは大きすぎる。

参加者：最終的に2つに分かれたのは観光も含めて産業の中に入れて、もう1つのテーマはシティプロモーションになったはず。

事務局：分野はそうだが、テーマは産業振興とシティプロモーション。産業の中に観光も含めて考えて行こうという。産業になぜ観光が入るかということ、商業だけ考えると区民向けになり、ビジネス的なことだけ考えると企業だけになり、観光だけだと観光客だけになる。港区で過ごしている人が分断されてしまう。

- 参加者： 港区の強みにホテルの多さがある。観光の中心部分であるのは他の区と違うので、観光産業になる。私が産業と観光を分けて考えたのは、医療や福祉の問題は、ビジネスと関係なく進む。海外では最先端の病院を観光するツアーもあるが、住んでいる人たちは恩恵を受けない。
- 参加者： 医療ツーリズムということであれば、観光産業の1つの分野として取り上げて良いが、住民の福祉や医療サービスはこのフォーラムとは違う。
- 参加者： そうやって完全に分けてしまうことが果たして良いかどうか。医療ツーリズムとやったら、外国人は高いお金を払って良い治療を受けに来る。そこに住んでいる私たち高齢者はどんどん出ていくことになる。
- 参加者： 観光産業については、海外から日本に来る外国のお客さんたちに、どうやって満足してもらおうかというのを議論している。そのことが盛り上がることで、住んでいる人間も何らかのメリットを受けるんだ、というそこから発しているの、その範囲で議論すべき。
- 参加者： 我々のグループでは観光をテーマにしようと思ったようだが、港区の中で生活している25万人がいるが、昼間人口で何百万人もの方が一過性で来る。そういう人をいかに定住化させるかという考え方が必要。他の部会ごとに議論しているのを統合したときに、ばらばらになるのは意味がない。統合するのは区長だが、狙っているのはそこだと思う。
- 参加者： 6Gから提言するときに、この中の分野に特定して提言できることもあれば、それが他のグループにも関わることも当然あるから、それはそれで良い。
- 参加者： 相反する問題を同時並行的に解決していかないといけない。それをうまく統合していくのがこれからの姿。
- 参加者： グループでかぶるテーマもあるが、事務局で話し合っ、そういうことがないように整理してくれているはずだ。
- 事務局： 会議の初めに検討範囲の限定をさせていただいた。今話していただいている観光ツーリズムというのは、大きい将来像の中の取り組みの方向性、具体的事業の中の1つとして入れ込むもので、観光をテーマにした医療だが、個別の具体事業に入った時に、観光にいれるか福祉にいれた方が良いのかは、こちらでグループの担当と話して決めることだ。頭に医療とつくと確実に福祉の分野になってしまうので、そこに関してはもっと議論を狭めて、ぶれていないような提言の方向性で調整いただきたい。
- 事務局： 今話になっているのは、医療や福祉という分野における産業を興していった方が良いのではないか。それは生活者にとってのメリットになるのではないか、というのが出発点だったと思う。
- 参加者： 興すのではなく、もうおきつつあるので、そこに行政的な参加が欲しい。会社がやるだけではなく区が繋いでほしい。そうすると私たちの生活も助かり、観光資源にもなる。
- 事務局： 観光資源になるというのは二次的な話。生活者としての免疫を高めることを、公金をつかってやる介護福祉的な行政サービスだけでなく、民間の資本を使ったマーケットにするような形でやってもいいんじゃないか、という話だと思う。最初に買い物支援の話があったと思うが、行政は買い物支援をやってもペイしない。スーパーが枯渇しながらやっている。どこかでビジネスモデルがうまく出来れば、買い物難民支援もビジネスになり得るし、それはデザインの問題だ。前回までは未来志向の上向きな話だったが、一方で区民と観光者と企業の三位一体に包括的にとらえていこうとなったときに、これ（お

金?)がないとダメかと思う。

参加者：具体的なことを言いたい。私が話しているのは全て今現在体験して直接聞いていることの延長線だから、提案している。

事務局：前回話し合ったことは共有されていると思うが、今回参加者と参加者が提案した生活支援的なビジネスを興していくこと、それが区民にとっても魅力になっていく、ということ将来像に入れ込むことに対して、皆さんが共有していただけるかどうかだと思う。それが健康福祉の9グループの領域を侵犯するんじゃないか、という話であれば、最後調整すればよい。それを心配してこれを抜こうというなら、その心配はない。内容的にどうかという話をしてほしい。

参加者：誰も抜きたいわけではなく、そこに包括するというよりは、観光も医療も産業の一部として捉えればよいのでは。

参加者：そのことよりも、二兎を追う者は一兎をも得ず、ということだけだ。

参加者：私はあくまでも産業に絞っている。居住者と仕事する人両方が良くなるよう、港区の中でどういう産業が必要で、起業するかということ、考えなければならない。今は医療の部分を入れないといけない。観光都市港区が今より快適になるには、オリパラに向けて港区でも何かするべきで、すぐに手を差し伸べられる医療が必要。ビジネスとしてやらないと区の財政だけではもたない。

参加者：法人は事業税や所得税を落としてくれない。医療費は確実にかかってきて、港区が老化していく中で、それに備えて今できることが何か考えるべき。外国人がどこまで定住してくれるか。そういう人をつなぎとめておく必要がある。

参加者：港区は医療機関が多いと思う。それを産業の1つに入れればよいのでは。

事務局：将来像に関しては皆さん一番最初の話から、特にぶれていないと思う。未来の歴史をデザインし、技術・伝統・ものづくりを繋ぐまち、世界都市、港とか。将来像はそういう形にして、今お話しした内容を、概要説明で生活支援が産業につながるような話とか、観光の話も盛り込む。具体的な事業も話の中で出ているので、将来像のキャッチフレーズ的なものを。

参加者：優秀なりタイアした専門家の方たちが活躍していける場を作り、新しい事業を興す必要がある。どうやってその道を作るかが大事。観光を生活と別に分けるのはいけない。

リーダー：案1、2あたりがキャッチフレーズになる。1行半くらいの将来像、ビジョンが作れるかと思う。その下に具体的な課題や施策の方向性は今議論している観光、医療、その他のバランスが出てくると思う。

事務局：ここにオリパラとか生活とかバランスとか繋ぐまちとか、そういったところが。ここまで書くかどうかだが。

参加者：そこまで書く必要はないが、そういう危ない構造だと思う。今は反映しているが。

事務局：便利だから住んでいるだけで、港区に住む必然性のない人が結構多い。

参加者：今、港区は財政豊かだから、そういう時にできる産業があると思う。利益は出ないかも知れないが、医療はお金があるときじゃないと出来ない。

参加者：港区はコスモポリタン化、外国人がたくさんいて、色んな多様性を持った人が住んでいる。そういう人たちにも入ってもらって、既存の産業の強みも活かしながら新しい日本のモデル化ができると良い。

参加者：産業と同時に生活しやすい港区にならないといけない。

リーダー：大手資本がやる地域開発と、従来から住んでいる人たちの共存、共生というところが重要になってくるとは思う。そういった意味でバランスが取れた、つなぐまち、リーディングシティ、モデル、こういったあたりを作文していくと、令和8年度の港区の産業振興の方向性というものがまとまるかと思うが、いかがだろうか。

事務局：将来像の作文は事務局預かりで良いか。次回ご覧いただく形にする。

4 課題と施策の方向性について

事務局が、資料4に基づき「課題と施策の方向性について」説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：議論の中でよく繰り返されているのは、色んな資源があるが、それが孤立化していて繋がりが薄い、それらをうまく繋げてハブ化していけば、良いものが生まれるのではないかというのが、良いところと課題が共通した問題点だと思う。昼間人口と夜間人口の差が開いており、それぞれ交流がなく孤立している。それらが協力し合い、リスク管理が必要だということ。「もろい」というキーワードは前回にはなかった。

事務局：「もろい」をもう少し行くと、生活者としての定着、の必然性みたいなところ。

参加者：特に夜間人口が極端に少ないので、住んでいると怖い。

参加者：商店街が潤うと、定着している人たちが、もっとそこによってくれるかも知れないというところに繋がるのでは。

リーダー：生活者の定着化。

参加者：そういうマイナス面はうまく展開すればプラスにかわる。

参加者：人がいないから逆に安全に感じる。

参加者：日本全体のことを見ると、人口の過疎化で困っているのは農村地域などの限界集落で、港区ではない。港区は住みたい人は多いが、地価や家賃が高いことに阻まれている。土地の政策は港区だけの話ではなくなる。

参加者：コミュニティはやろうと思えば行政の主導で出来る。

参加者：見方を変えると良い。他の地域と比べた時、港区は恵まれた環境にあり、一定の定住人口もいる。昼間たくさん人がいるということをもっとポジティブに捉えて、絆やネットワーク、助け合いの機能を強化することで、もっと住みやすい港区になると思う。

参加者：いくら地域がそうしていても、もう間に合わない。ビジネスとしてちゃんと位置付けないと個人の努力では無理なところまできている。

事務局：コミュニティデザインみたいなものが、生活支援的な枠組みの中に入って来る。ハブ、繋ぐまち、というよりは地方と都市とか新旧とか。企業と住民、住民と観光客みたいな感じで、セグメントを横断するような感じの話だが、住民内部の話のつながりとしても、そういった産業があるんじゃないか、ということで良いか。それを自治会、町会の話ではなく、産業振興としていくという。

参加者：これからデザインのまちを産業として作っていく、具体的な施策の中に、住民同士の絆を強めるような施策が入ってこれば良いのでは。

- 参加者：具体的にどういうことがあるかというのは、次の課題。今はどういう問題点があるかというところだから、住民同士のつながりが希薄だということと止まっている。
- 事務局：地域コミュニティの課題を、地域コミュニティの核となる商店街に担ってもらえるような産業づくり、という方向性でいうと、今いる 90 万人の人たちを繋ぐ産業自体を、商店街に担ってもらおうとか。人がいるけれど繋がっていないのが課題の方向性であれば、話は全て通じていくと思う。
- 事務局：どう産業振興とつなげるのか、という話だけだ。
- 参加者：プライバシーの問題で、マンションでも隣に住んでいる人が分からない。挨拶すらしない。
- 参加者：コミュニティを再生して、未来志向で新しい港区で、世界の先端を行き、しかも安心して住めるまちをつくるのは、個人の力では無理。
- 参加者：ウィークデーは仕事があるので、わざわざ商店街まで行って買い物はできない。商店街の活性化は本当に難しい。
- 参加者：そこからどうやって再生させるかが大きな課題。それが出来れば日本の中心として世界をリードできる港区になれる。
- 事務局：「繋ぐ」というのがキーワードになってくるときに、資源を生かすという中で、資源がイマイチ掘り起こされていないという話や、住民の中での繋ぐ、というところがあった。先般から地方と都市、新と旧みたいなものをハブとして繋いでいこうという時に、ハブとしての港区になっていく上での課題は何かあるか。
- リーダー：地方から見ると、港区はお高く留まっているから、なかなかシェイクハンドしにくいと思う。
- 事務局：23 区で今一番シェイクハンドしやすいのは港区。しにくい、というのが課題であって、28 年度に全国の自治体と連携する組織が出来て、今やトップランナーである。港区で災害があったら 23 区で一番、支援物資が届くかもしれない。それが知られていないのが課題である。知られていないことを発信する必要がある。
- 事務局：知られていないということは、オープンではないということ。
- リーダー：それは自治体同士のつながりだが、企業同士のつながり、及び個人同士のつながりになるとより一層知られていないということだ。恵まれているなら片方向の支援でいいだろうと思われかねない。ここで本当に生活している人の像は、外に伝わりにくい。実像の発信、生活者のレベル及び地域コミュニティの現状と魅力みたいなものの発信力が弱いし、誤解されているところがある。
- 参加者：商店街をそもそも知らない人が多い。外国人はもっと知らないと思うので、発信は必要。
- 事務局：生活者目線での発信。
- 参加者：地域生活者を観光資源としていくような観光が、これから必要。観光協会だけでなく、それぞれの地域商店街が、伝わる言語で発信する必要がある。それが今の商店街のキャパを超えているならば、行政がまとめて介入するべき。
- リーダー：それは 11 月以降のシティプロモーションで深めていく形になると思う。
- 参加者：課題として取り上げてほしいのは、各商店街のグローバル化の程度が低いということ。発信力が低い。
- 参加者：商店街も後継者がいない。
- 参加者：やりたい人はどこかにいるので、産業振興センターにマッチングの機能を持たせるべき。

事務局：ストックを活用して、新しい店を出してもらっても良い。

参加者：後継者がいなくなった時に紹介する窓口はあるのか。

事務局：中小企業で困り事があつたら、相談員が何人かいて、よろず相談できる体制になっている。

後継者を見つけるべきか、事業そのものをやめた方がいいのかも相談する。継続しないで切った方が、その人に不利益がないこともある。

リーダー：次回予備日があるので、落とし込んでいきたい。

事務局：かなり意見をいただき、煮詰まっているように思う。具体的な事業についてもご意見いただいたので、参画と共同の推進はまだしていないが、将来像から具体的な事業まで、事務局預かりで作文させていただくので、それについて抜けていることや、意図が違うようなことを、ご意見いただければと思う。そういう具体的な事業に対して、区民がどうコメントできるだろう、というような話し合いをしてもらえれば、テーマ1の提言書は出来上がると思う。

5 その他

次回の開催日程は、11月19日（火）とすることを確認した。

（閉会）

リーダーが第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月19日（火）18時30分～

会場：港区役所2階 保健福祉支援部会議室

メンバー：6名（1名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 検討テーマの振り返り
- 2 提言（素案）について
- 3 参画と協働の推進について
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	議論の前提とこれまでの意見
2	テーマ1に対する提言（案）
3	提言の構成について
4	提言の構成について
参考資料1	第3回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

1 検討テーマの振り返り

事務局が、資料1に基づき「検討テーマの振り返り」について説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：このまとめについて何か意見はあるか。

参加者：グループで話し合ったことが適切にまとめてある。質問だが、どの程度の区民が定住意向を持っているのか。そのようなアンケート調査結果はあるのか。

事務局：アンケート調査を行ったことがあるが、8割程度の方が住み続けたいという意向があることが分かっている。

参加者：高齢になっても港区に住み続けようとする意向が大事だと思う。そういった意向を区民が持っているのであれば未来を考えることはできると思う。

2 提言(素案)について

事務局が、資料2に基づき「提言(素案)について」の説明を行った。また、意見交換に際して、サブリーダーより具体的な事業に関する資料提供があった。

(主な意見等)

リーダー：リーダーやサブリーダー以外の参加者からまずは意見をいただきたい。

参加者：提言(素案)はこれまで話し合ったことが文章になっている。ただ、具体的にどうすればよいのかが分からない。

参加者：具体的な事業として書かれている内容が具体性に欠ける。何をすればよいのかが分からない。これまで具体的な内容が提案されてきたと思うが、このような内容でよいのか。

参加者：港区はこのままでよいのかという行政としての疑問もあると思う。その疑問から事業が立ち上がっているとは思っているのだが、自分たちとして具体的なアイデアを考えると悩ましい。

事務局：現在の基本計画を策定する際の提言書では、具体的な内容が事業例として書き込まれていた。

参加者：5つの具体的な事業が示されており、話し合った自分たちには想像できるものもある。ただ、「多彩な資源・ストックの発掘・連携・活用」については、具体的な事業を考えにくいものとなっている。また、この項目のなかで「区内につなぐ」という表現があるが、つなげなければいけないのか。区外に発信する場合もあるので、かならずしも「つなぐ」という表現を使わなくてもよいと思う。

事務局：今日の会議では、まさに具体的な事業について掘り下げていただきたいと思っている。

参加者：デザインというテーマでの具体的な取組は、企業や行政、大学、地域等をつなぐイベント性のある取組をやればよいと思う。区民も知見やスキルを持っているので、個人が企業と連携してもよいと思う。

リーダー：区内でのデザイン関連のイベントに、区民が参画するというイメージか。

参加者：区内にはデザインに関する組織・施設があるが、業界外との関係が薄いように思う。そ

のような組織・施設が、芝浦港南に集積しつつある企業とタイアップしてもよいと思う。さらに区民も関与してもよいと思うが、そのためには行政として取り組んでもらう方がよい。

参加者：再開発事業者やそのエリアを運営・管理する団体のなかには、地域とつながりがあるところもあれば、そうでないところもある。観光協会との連携もまちまちである。

事務局：たしかに観光協会と連携するところもあれば、そうでないところもある。ただ、DMOには多数の参画があり、国内外に港区のプロモーションへの協力もしていただいている。

参加者：再開発エリアでの住民や観光客に向けたイベントには、行政は何らかのアプローチをしているのか。それとも民間任せなのか。というのは、集客力のある再開発エリアから地元の商店への回遊を促していくこともできるはずである。ホテルの宿泊客に対しても同様であり、行政が働きかけて地元のPRを行い、地元の産業を活性化していくという考え方もあるのではないか。

リーダー：再開発事業者のなかには顧客を囲い込むところもあれば、まちづくりがうまいところもある。

参加者：囲い込むのであれば、エリアに限らず、もっと広く地域を捉えてくれればよいのだと思う。民間だけでは発想しにくい部分もあると思うので、行政が音頭をとってやっていくといいのではないか。

参加者：デザインに関しては芝浦港南地区を中心として連携を図っていけるとよいと思う。新興のエリアで事業者が新たに連携していくムーブメントができるといい。

リーダー：高輪ゲートウェイ駅も開設するので、よいタイミングなのかもしれない。

参加者：京都老舗の会という異業種ネットワークがあり、後継者が情報交換などを行っている。港区においても老舗のネットワークをつくってはどうか。

参加者：「デザイン」をテーマにした連携機会」に関して、港区産業コンペティションのような機会があるとよいと思う。また、老舗の会という話を踏まえると、行政としては情報を集約して発信するアプリを発行してはどうか。アプリをみながら老舗を巡るようなことが促せるとよいと思う。

リーダー：スタンプラリーのように楽しめるというものか。

参加者：観光地で取り組んでいる例はある。坂道や公園などもコンテンツとして取り上げられるといい。またグルメについては大使館と絡めてもおもしろいかもしれない。

参加者：先ほどのデザインに関連して、企業と学校との連携ができるといいのではないか。たとえばキッズニアのような授業があると思う。デザインというテーマであれば、将来の担い手である子どもの創造性を高められると思う。

(サブリーダーより、追加提案資料配布があった。)

参加者：住み続けるためには高齢者が健康でいる必要があるので、福祉型のビジネスを創出するべきだと思う。具体的にはリタイアした医療従事者を活用し、身近なところで気軽に医療が受けられる、相談に乗ってもらえるような場所をつくってはどうか。

参加者：福祉でいうと、介護施設は区内には少ない。そのため港区の高齢者が区外の施設に入ることが多くならざるを得ない。

参加者：これからは予防が大切だと思う。行政も予算をかけているが、ビジネスとして予防のための場があれば、さらにそこがおしゃれな雰囲気であれば、よりよい環境になっていく

と思う。すぐにできることではないと思うが、令和8年度までの計画なので将来的なこととして提案したい。

リーダー：場所を持つだけでなく、医療従事者の方が区内を巡ってもらえるといいように思う。

参加者：コンビニのなかにお医者さんがいるとおもしろいと思う。便利だと思う。

事務局：区内に病院等が多いようだ。

参加者：小さな病院は目に触れない。コンビニのような分かりやすい場所に、分かりやすい情報発信をすればよいと思う。

参加者：そのような場所は大型にしない方がよい。小さな場所をたくさんつくるように取り組んでいくことが望ましいと思う。そのためには医師会などと連携すればよいと思う。大学機構との連携も必要だろう。ただ、連携する際には公金がいられるので、公共性がある団体なのかということには留意する必要がある。

リーダー：令和8年度に向けて産業振興に取り組んでいくために地域通貨のようなインセンティブを設計できないか。港区独自のデジタルマネーやポイントを発行し、区内の企業のインセンティブにあてたり、商店で使えるようになってもらえばよいと思う。外国人旅行者も使えるようにすれば、旅行のたびに港区で買い物をしてもらえる。

参加者：ポイントなどを発行する際にはデザイン性が大事だと思う。そのような取組は、「多彩な資源・ストックの発掘・連携・活用」の具体的な事業として位置づけられるだろう。

事務局：国では、マイナンバーカードを活用したキャッシュレス制度の検討が行われているが、あまり知られていない。事業者・消費者の双方に抵抗感があるのも事実である。ただ、8年後には普及している可能性もあるので、それを見越して提言をいただいてもよいと思う。

参加者：区内には様々な技術が伝承されており、そのような職人をマイスター制度があると思う。そのような人たちを、ホテルなどを通じて発信するような取組があってもよいと思う。そのなかで職人のPRができれば、当人のやる気にもなるし、後継者が見つかるかもしれない。

事務局：提言の作り方について確認したい。今回いただいた意見を踏まえて、具体的な事業の見出しごとに、事業例を追記していてもよいか。

リーダー：そのようなかたちで作成してもらってよい。

3 参画と協働の推進について

(主な意見等)

参加者：自分が観光ボランティアを始めたきっかけは東京2020大会である。実際に参画して以降は大変充実している。

参加者：ここ数年、民泊が注目されている。港区は路地に入ると古い民家が残っていたりするが、活用できないか。都会的な港区とともに、昔ながらのまちを楽しむことができるのではないか。民泊をやっている区民はいないのか。

事務局：港区では民泊にはルールをつくり、登録してもらっている。現在、約300件程度の登録がある。ただ、地域コミュニティや区内のホテルとの関係から厳しいものとなっている。そのため民泊に参画する人が限られているのかもしれない。

- 参加者：港区は外国人旅行者のみならず、外国人在住者も多い。そのような区民に住む上でのニーズを尋ねたことはあるのか。この会議に参加している人は全員が日本人だが、外国人の声も聞けるとよい。
- 事務局：外国人在住者を対象としたアンケート調査は行っている。以前に行った調査では、理解しやすい日本語が求められているということは把握できている。
- リーダー：参画と協働の主たる対象は区民なのか。ただ、昼間人口は相当数おり、在勤者が参画・協働するという事は課題にはならないのか。
- 参加者：区民が増えているとはいえ、人口ボリュームは在勤者の方が多い。そこが取り込めればよいと思う。
- 参加者：観光ボランティアには区外在住者の方も少なくない。
- 事務局：最近増えているところである。港区が好きだという方のほか、昔区内で働いていた方やルーツが港区にある方など、港区に何らかの関係のある区外在住者が増えてきていると認識している。
- リーダー：レベルの高い観光ボランティアを全国から募るということも可能なのか。また、産業ボランティアという切り口は考えられないか。たとえば産業遺産を巡るようなガイドだが、ニーズはないのだろうか。
- 参加者：どのようなイメージか。
- リーダー：産業資源を発掘し、発信していくようなイメージである。港区に縁のある企業の創業地や、老舗を紹介するといったこともあり得る。地域に住む人や働いていた人の口伝として、掘り起こしていけるとよいと思う。
- 参加者：区内には企業のミュージアムも多いので、そのような場を紹介してもよいと思う。
- リーダー：商店街に関しては何かアイデアはないか。芝の方では辛い料理で売り出していたようだが。
- 参加者：たしかにイベントをやってはいるが、目に触れないままの区民や在勤者が少なくないだろう。商店街をどのように知ってもらうのが問題だと思う。何らかの取組を行っているのか。
- 事務局：鉄道事業者等と連携して、商店街の情報発信を街中で行っている。
- 参加者：ホテルの宿泊者に向けて、港区の商店などをPRする取組は行っているのか。
- 事務局：現在、ホテルの客室に港区の広報誌を置いてもらっている。現在、1万室で配布しているところである。
- 参加者：冊子はよいのだが、客室のテレビで港区を紹介する映像が流れるようなことがあってもよいのではないか。短い時間でもよいので、宿泊客が目にするような仕掛けを試験的に行ってよいと思う。
- 参加者：外国人旅行者は日本通の人もいれば、そうでない人もいる。どの層をターゲットにするのかを考える必要があると思う。
- 事務局：ぜひ検討したいと思う。
- リーダー：観光客が移動する手段があるとよいと思う。
- 参加者：ちいばすのようにローカルなルートを観光目線で作れるとよいと思う。
- 参加者：はとバスのようにガイドが乗っているとおもしろいのではないか。
- リーダー：ヨーロッパでは観光地を巡るトロールがある。港区でもホテルと連携して、宿泊客を乗

せて巡れるとよいのではないか。

参加者：クルーズ船の船着き場ができるが、そのような場でデジタルサイネージなどを用いて積極的に情報発信ができるとよいと思う。

事務局：具体的な事業と参画と協働は表裏一体だと思う。今日いただいた意見を踏まえて、具体的な事業と参画と協働に分類し、次回提言させてもらいたい。

最後に将来像について2案示しているが、最後にどちらがよいかを議論いただきたい。

リーダー：意見をいただきたいが、個人的には「未来の歴史をデザインし、人と技術と伝統のものづくりがつながるまち MINATO」がよいと思う。

参加者：自分も賛同するところである。ただ、「人と技術と伝統のものづくりがつながる」という部分がまどろっこしい。シンプルに書き換えられるとよい。

リーダー：ただ、3つが結ばれることが大事なのだと思うので、悩ましいところだ。

参加者：「伝統のものづくり」を「文化」に変更してはどうか。

リーダー：ただ、このグループは産業振興に関する提言を行うので、「文化」は広すぎるのではないか。

参加者：重要なのは人がつながることなので、技術と伝統のものづくりで人がつながるというように書き換えてはどうか。

事務局：2案のなかでは、「未来の歴史をデザインし、人と技術と伝統のものづくりがつながるまち MINATO」の方がよいか。文言まで決める必要はないので、どちらがよいかだけ決めてもらえるとありがたい。

参加者：「歴史と地域、そして人々がつながり、新たな産業と価値を生み出すまち MINATO」は一般的に過ぎる。

リーダー：たしかに、最後の「MINATO」を他の地名に変えても通じる場所である。また、令和8年度の状況を考えるとサービス業や情報産業が多いと予想されるので、語尾も「つながるまち MINATO」の方が適当だと思う。

事務局：「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりで人がつながるまち MINATO」のように変更すればよさそうか。いずれにせよ提言式は3月なので、細かくはまた議論いただくが、方向性として共有してもらえたと認識した。

4 その他

次回の開催日程は、11月27日（水）とすることを確認した。

（閉会）

リーダーが第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月27日（水）18時30分～

会場：港区役所5階512会議室

メンバー：4名（3名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 テーマ1に対する提言（素案）について
- 2 グループ会議のスケジュールについて
- 3 テーマ2の強みと弱みについて
- 4 将来像について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	テーマ1に対する提言（案）
2	グループ会議の検討スケジュール
3	テーマ2に関するこれまでの意見
参考資料1	第4回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

1 テーマ1に対する提言(案)

事務局が、資料1に基づき「テーマ1に対する提言(案)」について説明を行った。

(主な意見等)

«参加者から追加提案資料配布があった。»

参加者：前回会議では地域通貨やちいバスの観光客版について提案があった。観光客の立場に立つと、港区にこだわる必要はなく、区外の観光地を回りたいと思うだろう。ただ、港区の立場では区内の観光資源を堪能してもらいたい。そのための仕掛けが必要であると考え、観光ルートを考えてみた。地域通貨という提案を踏まえると、区内のマイレージのようなものと組み合わせることができるとよいと思う。また、デザインを切り口にするという話にもなっているので、バスやパス、地域通貨のデザインも統一的なもので、シティプロモーションツールになればよいと思う。最後に観光ボランティアの立場からすると、区民自体が観光を盛り上げるという意味でガイドを行ってもよいと思う。たとえば商店街を観光コースに含めるような考え方があってもよいと思う。

«サブリーダーから追加提案資料配布があった。»

サブリーダー：外国人向けのはとバスツアーに試しに乗ってみたのだが、よくできたサービスであった。観光バスを区がすべて負担するのは難しいと思うので、はとバスとタイアップをしてみてもどうか。はとバスのガイドは、日本人向けにも外国人向けにも分かりやすい解説をしていた。ガイドのレベルは大事だと思ったので、外部の専門的な知見を活かせばよいと思う。

タイアップは双方に利益があるのではないか。いまは外国人旅行者は多いが、東京2020大会後は見通しがつかない。そのなかで民間事業者と行政がタイアップすることはよいことだと思う。行政とタイアップすることで、大小様々な観光資源を用いてコース設定ができると思う。人材も含めて、観光資源も掘り起こしていくことができるのではないか。

参加者：はとバスの方は産業として成り立ちそうだと思う。ちいバスの方はシティプロモーションの具体的な事業になりそうだ。

事務局：いずれも区の財政に配慮した提案だと思う。いずれも具体的な事業として提言していただけでも大丈夫ではないかと思う。

リーダー：提言(案)について、何か意見はあるか。

参加者：内容はよくまとまっていると思う。

参加者：自分もまとまっていると思う。

参加者：これまでの意見交換を網羅しているので、内容としては結構だと思う。

リーダー：自分としても内容は問題ないと思う。実際に提言に向けて見直しはあると思うが、大筋はよいと思っている。最後に将来像の見出しについて2案あるが、どちらがよいか。

参加者：直感的には、「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりで人がつながるまちMINATO」がよいと思う。

参加者：日本語として適切だと思う。一方の「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづく

りが人をつなぐまち MINATO」は日本語としていかがかと思う部分がある。

参加者：キャッチコピーとしては「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりが人をつなぐまち MINATO」の方がよいと思った。ただ、キャッチコピーではないと思うので、日本語として適切な方がよいと思う。

事務局：たとえば「技術と伝統のものづくりが人をつなぐ」のような短文にするとコピーっぽいのだが、長いので違和感を持つのもかもしれない。

リーダー：「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりが人をつなぐまち MINATO」の方が人目を惹くようにも思うが、多くの人目に触れるフレーズなので、「未来の歴史をデザインし、技術と伝統のものづくりで人がつながるまち MINATO」になると思う。これについては今日欠席した方の意見も聞いた上で決定するのか。

事務局：意見を聞いた上で決定するようにしたい。

2 グループ会議の検討スケジュール

事務局が、資料2に基づき「グループ会議の検討スケジュール」の説明を行った。

3 テーマ2の強みと弱みについて

4 将来像について

事務局が、資料3に基づき「テーマ2に関するこれまでの意見」の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：宣伝を行うにあたっては口コミが効果的だと思う。直接の知り合いから聞くだけでなく、近年ではSNS上で信頼のおけるアカウントが発信する情報がきっかけになることが多いと思う。口コミを活用するなら、区内を体験してもらう必要があるのも、何らかの方法で区内に引き込まないといけない。そういうところに投資するとよいのではないか。

リーダー：インフルエンサーの元火をつくるということと理解した。

参加者：外国人向けはとバスツアーに参加したが、自分にとっては港区のことを知り尽くしたと思っていたが、区民の目線と旅行者の目線の違いがあると気づいた。行政が情報発信をするのであれば、その違いを認識した上で発信しないといけない。観光資源は多数あるが、行政の視野には入っていないのかもしれない。民間が保有する資源を掘り起こして、つながることができるとよいと思う。もったいないと感じている。

また、観光資源はハードだけでなく、ソフトについても行政として積極的にかかわってもよいと思う。

リーダー：まさに課題になると思う。

参加者：先ほど提案したはとバスとのタイアップは、民間の企画力を活かそうという意図もある。行政とは異なる視点で観光資源を掘り起こしてくれるのではないか。

参加者：ここで議論するシティプロモーションは外国人に限ったことではないという理解でよいのか。

事務局：その認識でよい。

参加者：シティプロモーションの議論は、港区という単位で考えてよいのか。旅行者は港区という括りは気にしていないのではないか。スタート地点はどこに置けばよいのか気になる。

- 参加者：やりようによるのではないか。いまは観光資源が個々に取り組んでいると思うが、港区が音頭をとって連携していけば、港区という括りで打ち出せると思う。たとえば歴史が深い港区ならではの打ち出し方があると思う。
- 参加者：たしかにそうだと思うし、そこが取り組めていないと思う。外国人旅行者は浅草が好きだが、日本的な歴史に惹かれるのだと思う。そういったことを踏まえると、港区は強みがあると思う。
- 参加者：港区は明治維新以降の近現代の歴史が特徴だと思う。他の自治体は江戸時代の歴史を強調するが、それを打ち出せるといいと思う。すでに明治維新以降の歴史に関心を持って観光している外国人もいるようだ。
- 参加者：たしかに明治維新以降の史跡を観光ボランティアで案内することもあるが、港区という括りは意識してはいないと思う。渋谷区であれば渋谷駅があるので「渋谷」という認識があるが、台東区は観光資源が豊富な自治体だが、「台東」という認識は持たれていないだろう。ただ、港区という括りを認識してもらう必要があるのか。
- 参加者：自分もそう思う。区内の資源をつないで港区という括りで打ち出す必要はあるのか。
- 参加者：港区としてシティプロモーションの目的をどのように設定しているのか。港区という名称を覚えてもらえなくても、区内の資源が発信され、それぞれのまちがにぎわい、商業等が潤えばよいという考え方もあるのではないか。そもそもシティプロモーションの目的を、区はどのようにとらえているのか。
- 事務局：シティプロモーションの目的は、シティプロモーション戦略を策定しており、観光客に選ばれ続けるまちであることである。そして、最終的にはシビックプライドの醸成につながることを目指している。
- 参加者：港区という括りで打ち出したいということか。
- 事務局：区内の拠点エリアの認知度は高いが、それらが港区であるということを知ってもらいたいという思いはある。
- 参加者：それであれば、それぞれのエリアで統一的な何かを持たないと難しいのではないか。
- 事務局：先ほど渋谷区と渋谷駅の話があったが、渋谷区が持ってもらいたい愛着が渋谷駅だけをフックとしてよいと思っているだろうか。象徴的すぎて多様でないようにも思う。一方、港区は多様なフックがあって、それぞれのフックで愛着を持っているかもしれないが、港区への愛着につながらないということか。
- 参加者：そうであれば、港区に愛着を持ってもらうための方策を議論すればよいのではないか。
- 参加者：シビックプライドといえば、多くの人が訪れるまちが港区内にあるということを誇りに思うことがある。
- 事務局：区の課題として港区という名前が周知されていないこととして、それに取り組むという提言につなげるというのも可能性はあると思う。
- 参加者：テーマ1の将来像に「MINATO」という言葉が入っているので、その方向性は整合性を取れると思う。
- リーダー：国内においては港区という名前は知れ渡っていると思う。
- 事務局：地方の人であれば港区という名前は知らない可能性はあると思う。六本木、青山、赤坂、台場という地名は知られていると思うが、港区はどうだろうか。大阪市や名古屋市にも港区があるので、勘違いされることもある。

参加者：トレンディドラマで港区の名前が発されることもあった。

参加者：港区に住んでいると思入れがあるかもしれないが、区外からみると認識されていないかもしれない。港区に住んでいると言って驚かれることもあるが、それも東京都の人だけなのではないか。

リーダー：問題は根深いのもかもしれない。

参加者：港区内に有名な駅はあるか。六本木ぐらいか。

事務局：新橋や表参道はあり得るかもしれない。ただ、地下鉄なので、駅があるという認識がないかもしれない。

リーダー：中核になる駅の名称が自治体名称と異なることでデメリットになるのか。

参加者：核となる駅がひとつだけではないと捉えることもできるだろう。

事務局：個々の地域は世界的に知られていることは強みだと思うが、それぞれが港区とつながっていないということが弱みになるということだろう。

参加者：質問になるが、港区では、海外にPRセンターを設置しているのか。

事務局：海外には設置していない。姉妹都市として協定を結んでいるところもない。

参加者：港区として、区内の観光スポットを発信する場所はあるのか。

事務局：鉄道事業者等と連携して場所を設けている。

参加者：有名なエリアやスポットには多くの人が訪れるので、ひとつには、そこから区内の他の観光資源を巡ってもらうかが課題だろう。もうひとつは、その観光スポットが区内にあるという認識を持ってもらうということが挙げられる。

参加者：先ほど提案した循環バスはよいと思う。

参加者：港区はすごい取組をやっているのだが、区民には知られていない。大きなイベントをやっても、生活をしている人にはかかわりがない。ズレがあるように思う。生活をしている人のなかにはボランティアをする余裕がない人もいる。そのようなことも意識しないといけない。つまり、区民にどのようなメリットがあるのか、ということだ。

参加者：シティプロモーションを考える上では、区外に向けて発信していくことと、区民に向けたアクションも必要なのかもしれない。

参加者：港区は人口が増えていると思うが、長年住んでいる人も多い。そのような方がボランティアをするかということ、やや疑問である。長年住んでいる方は、観光で盛り上がっている現状については疑問を感じている節もあるだろう。いまは東京2020大会に向けて盛り上がっているかもしれないが、大会終了後も見据えて考える必要があると思う。

参加者：ボランティアに関しては、区民だけでなく、在勤者が行うような可能性はないのか。ただ、企業が枠組みをつくらないと、在勤者がボランティアをすることは難しいだろう。そのような取組を企業が行うように、行政が働きかけていくことも考えてはどうか。

リーダー：シティプロモーションから話が外れているように思うので、議論を整理したい。港区として認識してもらうことが課題であったはずだ。たとえば、日本橋のように、地名の冠に「港」とつけるというような取組があってもよいだろう。また、駅が港区に立地していることが分からないなら、駅名の掲示に港区と明示することもあり得るのではないか。

参加者：港区内には坂や史跡がたくさん設置されているが、デザインが素晴らしい。

リーダー：そういった掲示が、坂や史跡にかかわらず設置されていると、港区であることが伝わると思う。

今回の意見交換で興味深いのは、明治維新以降の歴史に着目するということだ。

参加者：東京タワーなどの観光スポットが元々何だったかということを知ると、明治維新以降の歴史を知ることができる。

事務局：たしかに江戸時代は、他の自治体でも取り上げている。そのなかで明治維新以降というのは差別化できるだろう。

参加者：港区に愛着を持つということは、先祖から続く土地とのつながりも必要なのではないかなと思う。

事務局：港区のアイデンティティの確立は、区民にどのようなメリットがあると思うか。

参加者：愛着が醸成されることで精神的に豊かになるということはあると思う。

事務局：シティプロモーション戦略を踏まえて議論をさせていただいていると思うが、みなさんの思いもあると思うので、その観点から意見をお聞きしたいところはある。

リーダー：港区が知られていないということであれば、やはり知ってもらいたいとは思っている。

事務局：それであれば、港区が、区内外に知られているということが、令和8年度には達成されているということがゴールになるだろうか。

参加者：具体的な事業になるが、港区各所でバッジのようなものを販売し、他のところで特典をもらえるような仕掛けがあってもよいと思う。そうすれば区内を回遊すると思う。他には、区内にパブリックアートのような共通のモニュメントを設置し、SNSなどで拡散してもらいたいような仕掛けがあると思う。そうすると港区という括りで認識されるようになるのではないかな。

リーダー：デザインをテーマにしようという意見もあったので、共通のモニュメントを設置することはよいように思う。港区のシティプロモーションの色も、もっと活用してもよいと思う。

事務局：これまでの意見交換を踏まえ、次回以降も意見交換を重ねた上で、将来像等の案を提示させていただければと思うが、よろしいかな。

リーダー：そのように進めるのでよい。

5 その他

次回の開催日程は、12月11日（水）とすることを確認した。

（閉会）

リーダーが第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月11日（水）18時30分～

会 場：港区役所9階 911会議室

メンバー：6名（1名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 テーマ1に対する提言（素案）について
- 2 検討テーマの振り返り
- 3 将来像・課題について
- 4 政策の方向性等について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	テーマ1に対する提言（案）
2	テーマ2に関するこれまでの意見
3	テーマ2に対する提言（案）
参考資料1	第5回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

1 テーマ1に対する提言(案)について

事務局が、資料1に基づき「テーマ1に対する提言(案)」について説明を行った。

(主な意見等)

«参加者から追加提案資料配布があった。»

参加者：外国人は明治維新以降の歴史に興味を持っているようだ。それに応える資産が港区には豊富にある。ただ、認識されていないので、いかに対外的にPRしていくかが課題だろう。他県では行政がテレビでPR番組を持っているが、港区でもできないのか。視聴者がおもしろいと思えるようなPRができるとよい。

事務局：基本的に一般的なPRはできるとしてもらいたい。

参加者：もっと広い範囲に届くような情報発信できるとよい。

事務局：最近ではFacebookを用いて4か国語での情報発信をしている。区外の方にもプロモーションするようにはしている。

参加者：メディアで紹介されるとよいと思う。

リーダー：提言(案)についてはどうか。

参加者：よい案ができていると思う。将来像については、個人的に、人と地域をつなぐということが盛り込まれている点が良いと思った。区内でのつながりだけでなく、周辺地域との連携も必要だと感じる。人と人だけでなく、地域と地域というメッセージがあってもよいと思う。2つの案があるが、後者の方がよいと思う。

参加者：キャッチコピーを20文字以内でつくるのは難しい。明治維新以降の技術革新の象徴のひとつが新橋からの鉄道の開設だろう。まさに港区での出来事である。いまでも、その遺産を引き継ぎながら、世界に向けて、未来に向かって走り続けている。そのような進行形で動いている様子を将来像として表現できるとよい。

事務局：先ほど文字数の話が出たが、当初提示した提言のひな型では、キャッチフレーズは確かに20文字以内だった。ただ、説明文は文字数の制限はない。それであれば、MINATOというアルファベット表記は残した方がよいと思う。

リーダー：将来像のキャッチフレーズは、ここで決めないといけないのか。

事務局：提言式は3月である。2月頃に決まっていればよいので、ここで決め切れなくてもよい。

リーダー：サブリーダーの案は20文字以内という前提に収めてもらっている。一方、MINATOという表記は残したいところである。自分としては「羅針盤」という海にかかわる単語が使われている点は港区らしいと思う。ここでは決め難いので、引き続き検討させてもらいたい。

サブリーダー：「羅針盤となるまち、MINATO」としたらどうか。

事務局：意見交換を踏まえた部分が「未来の歴史をデザインする」である。この部分は残しておいた方がよいと思う。たとえば、意見をすべて盛り込むと、「未来の歴史をデザインし、伝統の継承と技術革新で、人と地域が繋がるまちMINATO」などが考えられる。

リーダー：それでは長すぎる。折衷案を探れるとよい。

参加者：「技術」という言葉には、テクニカルな意味のほか、創造性やクリエイティブも読み取ることができると思う。そして、それがデザインなのだと思う。

参加者：港区の創造性でいうと、以前は六本木国際映画祭が行われていたが、現在はだいぶ縮小されてしまったようだ。

リーダー：産業的なデザインだけでなく、芸術的な面でのクリエイティブも巻き込んでいくイメージになるか。映画も近代化の産物であるので、意見をいただきながら、提言を煮詰めていけるとよい。

2 検討テーマの振り返り

事務局が資料2に基づいて説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：ヨーロッパの都市で町々に共通のオブジェが置かれていたという情報提供があったが、どの国だろう。

参加者：どの国か定かでないが、印象には残っている。港区内にも、デザインの凝らしたオブジェのようなものが点在しているとインスタ映えするので、仕掛けになると思う。

リーダー：港区だと鉄道のような近代化遺産のシンボルをモチーフにするのかもしれない。

参加者：前回提案のあった区内周遊バスはデザイン的に工夫されたものを想定しているのか。それとも既存のちいバスをベースとするのか。現在、都営バスの路線が維持しにくくなっているなか、地方の交通事業者が参入してきている。そのような企業と連携するのも方法のひとつだと思う。

参加者：はとバスとの連携は可能性があると思う。

参加者：区内には様々な文化施設があるので、ぜひ連携してもらいたい。すでにある資源を新しい時代に即してアップデートすることも必要だが、そもそも知られていない資源もある。発信方法は時代時代に合わせて検討した方がよい。

もうひとつ連携ではボランティアとの連携がある。現在の観光ボランティアは資格の有無などの要件が設けられていないが、たとえば質を高めるために専門性を求める枠組があってもよいと思う。観光業に携わったキャリアのある人は別枠にするなど、使い分けがあるとよいと思う。

リーダー：ハイパーボランティアともいうべき存在かと思う。

事務局：港区はキャリアを積んだ方が多く住んでいると思うので、リタイアされたかたの生きがいとして、そのような活動はよいのではないか。第1回会議にて産業振興にそのようなハイキャリアの区民を活用するという意見もあったが、産業全般では取り組みにくいので、観光ボランティアの枠組みのなかで取り入れられるとよきそうだ。

3 将来像、課題について

資料3に基づいて事務局より説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：港区を知ってもらうには、資源の掘り起こしも発信も十分ではない。また、それらを結

びつける交通手段もないという認識が共有されている。そういった課題が解消されれば、提言（案）にあるような将来像が実現されるという構成である。

参加者：外国人旅行者に港区の存在を知ってもらうには、陸海空の交通拠点で、そこから港区に誘客するような情報発信をするべき。場所だけでなく、メディアも考えた方がよい。

参加者：羽田のターミナルに港区の観光インフォメーションブースをつくることはできるのか。

事務局：簡単にはできない。

参加者：区外にあるだけでなく、活用したいのは港区だけでないので、うまくやらないといけない。たとえば行政区を超えた広域観光を組織するとよいと思う。

事務局：羽田空港には東京全域をフォローする観光情報センターが入っている。観光パンフレットも置いてあるし、多言語で対応もしているが、港区独自の取組ではない。

参加者：区内にある竹芝栈橋は活用できないのか。

事務局：竹芝は島しょ部へのアクセス拠点であるため、区内への誘客は難しいかもしれない。小笠原諸島を含む島しょ部の観光客は利用するので、利用者は多い。エリアマネジメントを行い、まちづくりを進めているところである。

参加者：そういった意味では、港区という名前だが、港は少ない。

4 取組の方向性

（主な意見等）

参加者：PRが足りないという意見があったが、港区に住む芸能人に観光大使になっていただき、区をPRしてもらうという事はできないのか。

事務局：観光大使は現在69名が登録している。PRだけでなく、参画と協働の担い手でもある。

リーダー：観光に特化した人物で、国際的にも通用する人材が望ましいのではないかと。

参加者：たしかに著名な方は影響力があると思うが、若い人に情報を拡散できる人が望ましいと思う。港区でのライフスタイルを生活者目線で発信してくれて、それに憧れを抱かせることができる人材である。現在の観光大使は高齢であるように思うが、若者に影響を及ぼせるような人がいてもよいのではないかと。

参加者：どうやって探すのか。

参加者：まずはSNS上で発信している人に着目するとよいのではないかと。日常的に発信し、フォローされている人でなければ、急にSNS上のインフルエンサーにはなれない。だが、できるかぎり生活者目線で港区を紹介してくれる人がいい。

小塚さん：国外への情報発信を求めるのであれば、外国人によるスピーチコンテストを行い、募ってはいかがかと。

リーダー：外国人に港区の情報発信をしてもらうという意見と認識した。

事務局：大田区では外国人住民の方にSNS上で母国語を使った情報発信をしてもらう取組を行っている。

リーダー：港区ライフを自慢するようなコンテストを行えばよいのかもしれない。

参加者：若者はチャンスを求めているので、そのような機会があれば前向きになる人もいないのではないかと。

参加者：以前から大使館とのタイアップがあった。大使館内はその国の文化や生活習慣に近い。異文化に興味があって大使館を回ってみたいという人もいないのではないかと。そういった

人向けに大使館側は自国のことを周知するという連携もあってよいのではないか。

参加者：いまも大使館ツアーは年1回実施している。ただ、制約はあって、アメリカのような国の大使館はツアー先に含まれていない。興味がある場所ではあるが、特殊な環境であるので難しい点もあるようだ。

事務局：大使館を巡るスタンプラリーを行っている。たしかに大国の大使館はコースに含まれていない。ただ、アフガニスタン大使館などは協力していただいております、普段行くことが難しい国の大使館に訪れることができ、その国の文化を体験することができる。

参加者：区の事業ではないかもしれないが、近所の大使館に年に何回か通う事業が実施されている。

事務局：渡航先になりにくい国を巡る方がよいかもしれない。

参加者：特定のエリア内でお得にランチをランチパスポートという冊子やアプリがある。そのような仕組みがあるといい。また、港区独自のデザイン性の高い御朱印帖があれば、区内の神社を巡る人が増えるのではないかと。大使館は限定されるかもしれないが、飲食店や神社仏閣は柔軟に対応してもらえるのではないかと。

また、電車やバスのなかで港区に入ったタイミングでアナウンスがあると港区だと認識するようになるのではないかと。スマートフォンに案内が表示されてもよいし、何らかの案内表示があってもよいと思う。

参加者：港区単体では難しいと思うので、沿線の自治体と連携して行えるとよいのではないかと。訪れる側からしても、港区だけで閉じるよりも、広く連携している方が望ましいのではないかと。

参加者：大田区に勝海舟記念館があるが、港区で連携することはあり得ると思う。

参加者：区内の神社仏閣の訪問者数ランキングを発信すると、行ってみようと思う人もいるのではないかと。

事務局：小さなところは訪問者数をカウントしていないので、難しいと思う。

参加者：地域連携という意見が出ていたが、地方の自治体と連携し、中学生・高校生を呼び込むことをしてもよいのではないかと。修学旅行でフリーに遊べる時間があると思うが、そのときに港区に来てもらえると思う。

参加者：地方の子どもたちも含めて、若い世代に港区を発信してもらうのはよい。修学旅行の自由行動を企画するときにお手伝いをする窓口があってもいいかもしれない。

リーダー：地方の中高生が東京に期待することは、芸能人に会うことだということ。区内には民放局がすべてあるので、訪れている子どもも少なくないのではないかと。

事務局：芸能人に会えないにしても、テレビに映っている場所に訪れるというのはよいかもしれない。

リーダー：何にせよ、何らかの憧れがあって土地を訪れることが多いと思う。その憧れと場所をリンクさせるような仕組みがあるとよいと思う。

事務局：修学旅行でいうと、連携自治体が区役所ロビーなどで、生徒が地元産品を販売するような取組も行っている。そういった連携をすることは可能性があると思う。

参加者：はとバスは民間の企業だが、港区が出資して影響力を強めていくことはできるのか。

事務局：はとバスは港区の観光協会のメンバーであり、すでに事業で連携している。

リーダー：港区の路地まで入り込むバスはあるとよい。ただ観光的なものになるとちいバスではデ

ザイン的に十分ではない。港区らしいデザインが望ましい。

参加者：豊島区では、著名なデザイナーがバスをデザインしている。港区でもできるとよいかもしれない。

参加者：観光に特化したバスルートがよいと思う。

リーダー：回遊バスの必要性は認識されているので、令和8年度に向けて実現できるとよい。そのバスで区内を回遊するなかで、魅力を見つけてもらえるとよい。

参加者：ナイトタイムエコノミーに関連して、区内の美術館や公園でマーケットをやれば集客になるのではないかと。

事務局：公園を活用して稼ぐような話はあると思う。

参加者：観光客が区内を回遊するようになるのであれば、港区をアピールするようなTシャツをつくってはどうか。それを着ている人が多く歩いたりしていると、それがPRになる。

参加者：ヘルスツーリズムもあり得ると思う。

事務局：関連する事業もあるので、事務局としてもあり得る話だと思う。

5 その他

次回の開催日程は、12月25日（水）、区役所9階911会議室、18時半開始とすることを確認した。

（閉会）

リーダーが第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日 時：令和元年12月25日（水）18時30分～

会 場：港区役所9階 911会議室

メンバー：5名（2名欠席）

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第6回グループ会議の振り返り
- 2 テーマ2の検討
- 3 テーマ1の提言案（将来像）について
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	テーマ2に関するこれまでの意見
2	テーマ2に対する提言（案）
3	テーマ1に対する提言（案）
参考資料1	第6回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨

(開会)

1 第6回グループ会議の振り返り

事務局が、資料1に基づき「テーマ2に関するこれまでの意見」について説明を行った。

2 テーマ2の検討

事務局が、資料2に基づき「テーマ2に対する提言(案)」について説明を行った。

(主な意見等)

«参加者から追加提案資料配布があった。»

事務局：観光ボランティアとして活動しているのでツアーを企画してみた。リピーターとして日本に訪れる外国人旅行者は様々な体験を求めている。区の地域資源と連携した体験型のツアーを提供できると、他区と差別化が図れると考えた。この会議でも取り上げられている東京クルーズターミナルでウェルカム動画を流すことができればPRになると考える。

ツアーでいうと、旅行中のすき間時間に回れるミニ観光ツアーを実施すると良いと思う。それとともにツアーを好みで選択できるとよいと思う。

リーダー：提案いただいた事業案は提言案に追加することも含めて提言について議論していきたい。個人的にはミニツアーは港区に滞在してもらうにはよいと思う。

事務局：気軽に参加できそうでよさそうである。

リーダー：ホテルを出発して、ホテルに帰ってくるだけでなく、途中で離脱できるとよいと思う。

事務局：よい提案だと思う。特にウェルカム動画はおもしろいと思う。また、外国人旅行者に日本人が観光資源について丁寧に説明することは、日本人が親切であると実感できると思う。そのようなシーンをウェルカミング動画で流すことができると訴求力があると思う。

リーダー：他に何かないか。

事務局：到着したばかりで時差ボケをしているようなときにも、時間を無駄にしたくないと思うので、ミニ観光ツアーはよいと思う。

事務局：出張の際には必ず空き時間ができるが、赤坂見附駅近くには、そういう人は多くいるのではないか。そのような人がちょっと豊川稲荷を散策するというイメージは沸く。

リーダー：所要時間別にコースやテーマが設定されたメニューがあり、検索可能で、気に入ったメニューを選ぶとツアーができるようになると便利だと思う。

事務局：はじめて訪れた土地で空き時間があっても、その土地を巡ろうとしても所要時間が分からないので二の足を踏む。そのようなときに相談に応じてもらえたり、付き添ってもらえると安心して観光できる。

リーダー：人がアテンドしてもよいが、AIを活用したサイバーコンシェルジュでもよいと思う。

事務局：高輪ゲートウェイ駅はAIが活用されているようだ。

リーダー：令和8年度にはすべての駅がそうになっていそうだ。

事務局：提言に書かれている内容の過不足について気づくことはないか。

リーダー：渋谷区にはスクランブル交差点というシンボルがあるが、港区にはないことが難しい。意識的にシンボルをつくっていくことを検討してもよいのではないか。それをつくった

上で、これまで提起されてきたデザインやオブジェの話ができるのではないか。

事務局：港区のシンボルをひとつ選ぶとすると東京タワーではないか。東京タワーは世界的に知られている。ただ、将来的にもシンボルとするのか、違うものを構想するのか。

事務局：東京タワーをうまく活用できればよいと思う。「スカイツリーじゃなくて東京タワー」と考える人が増えるといいと思う。

事務局：東京タワーを運営する企業は、観光協会にも長年かかわってもらっている。

事務局：パリといえばエッフェル塔であるので、東京タワーの魅力を掘り起こすようなことをしてもよいのではないか。東京タワー・ルネッサンスのようなリバイバルがあってもよいと思う。

リーダー：港区といえば東京タワーであるので、たしかにシンボルだと思う。ただ、もうひとつぐらいいは欲しいところだ。レインボーブリッジは港区なのではないか。回遊のコアにしてもよいのではないか。

事務局：東京タワーもレインボーブリッジ、どちらも土木建造物なのがおもしろい。

リーダー：昭和と平成を代表する土木建造物だ。

事務局：取組の方向性にある「港区への意識づけ」については具体的にしていきたいところだ。

事務局：意見交換では「港区の意識づけ」が重要だという共通認識ができていると思う。

事務局：キャッチフレーズには「歴史」という言葉が用いられている。明治維新以降の歴史を感じさせるシンボルがあってもよいのではないか。

事務局：高輪ゲートウェイ駅には、昔は海だった時代からの埋め立て・開発の歴史が動画で紹介されるそうだ。

リーダー：やはり港区は明治以降の近代化の足跡を感じることができるのだろう。ただ、その遺産をうまく活用できていないように思う。

リーダー：テーマ2について意見交換をしてきたが、提言はまとめられそうか。

事務局：事業について提案をいただき、またシンボルについても意見をいただいた。「港区の意識づけ」については具体的な事業は書いてあるものの、港区として受け止めが難しいところでもあった。ただ、今回、区のシンボルや歴史について意見をいただいたことで、港区として取り組みやすくなったのではないかと思う。

また、ミニ観光ツアーは観光協会と区の間で検討すれば、すぐにでも実行に移せるものだとも思うので、意見を踏まえて提言を更新したいと思う。

リーダー：シンボルの話にもどるが、出張から帰ってきたときに東京タワーを見ると、港区に帰ってきたと思う。ただ、東京タワーの近くはにぎわいが無い。東京タワーを訪れた人はタワーに登って下りるだけで、すぐに別の場所に移動せざるを得ない。にぎわいがあるとよいのだが。

事務局：たしかにスカイツリーは商業テナントと一体になっていて、にぎわいが生まれている。

リーダー：スカイツリーは集客施設がスカイツリー以外にあることがよい点である。

事務局：東京タワーの近くでは、増上寺や虎ノ門ヒルズが観光・商業スポットとしてあるが、どうなのか。

リーダー：虎ノ門ヒルズはやや遠いか。

事務局：虎ノ門ヒルズ駅ができると変わると思う。話は変わるがレインボーブリッジ近くの竹芝も、現在再開発が進められている。竹芝にまちが形成されると、レインボーブリッジ近

隣の人の流れも変わるのではないかと期待している。

事務局：丸の内などでは無料の回遊バスが走っているが、東京タワー周辺もそのような交通手段があるとよいのではないか。

リーダー：ちいばすのルートを変えて対応することも、あり得ると思う。

事務局：御成門駅から東京タワーを経由して赤羽橋駅まで歩くルートは、散歩には楽しいルートだと思う。

リーダー：たしかにそうだが、にぎわいはない。東京タワーは遠くからでも見ることはできるが、近くに行こうとすると難しい。道順が複雑なので、そのあたりが改善されるとともに、にぎわいが生まれてくるとよいのだろう。

事務局：シンボルは見て楽しむだけでなく、そこに行って楽しめないと観光には供さないのかもしれない。

事務局：歴史の話になるが、歴史に関する観光資源の紹介は個々の資源に関するものが多く、時間軸に沿ってストーリーを紹介するものはない。複数の観光資源を組み合わせるストーリーを組み立てることはできるのではないか。明治維新から現在に至る時間軸のなかで観光資源を位置づけ、紹介できるとよいと思う。

事務局：ボストンは、ボストンが歴史的に形成される歴史を巡るガイドが街中に自然に設置されていたと記憶している。そのような仕掛けが港区にもあるとよいと思う。

リーダー：港区では、明治維新からの歴史を巡るガイドがあるとよいということになるだろう。スマートフォンなどと組み合わせるバーチャルな仕組みをつくることも、令和8年度には可能だろう。

事務局：話が変わるが、区内の子どもが港区の歴史を学ぶような機会はあるのか。

事務局：かつては郷土史を学ぶ機会があったようだが、最近の小学生は時間割が過密になっており、時間をとれているのかは定かではない。

事務局：そのような時間があってもよいのではないか。

事務局：港区での愛着を持ってもらう上でも大事だとは思っている。

リーダー：最後に将来像について意見をいただきたい。

事務局：4つの案があるが、どれかを選ばなくても、方向性を決めてもらうかぎりではよいので、意見をいただきたい。

事務局：3つ目が方向性としてよいと思う。シティプロモーションの将来像を最も的確に表現しており、区民に行動を促す力があるように思う。行動の結果よりも、区民の行動を惹起するような将来像のキャッチフレーズにした方がよいと思う。

リーダー：区民が主体になるようなキャッチフレーズがよいと思う。ただ、プロモーターという言葉は考えた方がよいとは思いますが、区民を巻き込もうとする3つ目の案がいいと思う。

事務局：3つ目の案は英語にも翻訳しやすいと思う。

事務局：3つ目の案の「観光推進区」はやや硬いと思う。どれを選ぶということは難しい。

事務局：海外に発信するとともに、区民にも「港区」を意識させるという意味で、3つ目の案はよいと思う。ただ、「観光推進区」という言葉で「区」という枠組みを意識していることは気になる。とはいえ、3つ目の案をベースにして、区民が主役となるようなキャッチフレーズがよいと思う。区民に鼓舞するような内容がよいと思う。あと、MINATOというアルファベット表記にはこだわった方がよいと思う。

事務局：「プロモーター」という名称は興行師を感じさせるので、その点は改めたいと思う。

リーダー：区民に主役性がある、よい言葉が見つければよいと思う。

事務局：「港区ファン」という言葉はよいと思う。シティプロモーションの目的について議論したとき、観光客だけでなく、区民も対象にしていると区から説明があった。訪れる人だけでなく、住もうとする人も「港区ファン」になるのは望ましいと思う。

事務局：それには同意するが、2つ目の案はやや長い。

事務局：「区内の」という表現は好ましくない。

事務局：「あなたも、わたしも」と言い換えてはどうか。呼びかけるような感じが出ていい。

事務局：「あなたも、わたしもファンになるMINATO」となるか。

事務局：「来た人だれもがファンになる」がよいと思う。

事務局：観光客だけでなく、住んでいる人だけでもなく、限定せずにファンになってもらうことがよいと思う。

リーダー：「来た人だれでもファンになるまちMINATO」になるだろうか。後半部分は要検討だとは思う。

事務局：「観光推進都市」は漢字が続くので避けたいところである。

リーダー：将来像において「推進」というアクションを表す言葉を使うのはおかしいかもしれない。

事務局：「観光で輝くまちMINATO」でもよいのではないか。

事務局：具体的な取組の話になるが、港区に対する意識を持ってもらうための取組として、区内の事業者などが共通して利用できるロゴをつくることはできないか。港区のブランドの発信にもなり、ロゴを使う側にもメリットがある。

リーダー：オープンに利用できるとよいと思う。

事務局：デザインがよいことが条件だと思う。

事務局：シティプロモーションシンボルマークがそれに該当するのではないか。

事務局：もっとよいデザインが望ましい。

事務局：港区にはゆるキャラはつくっていないのか。

事務局：リサイクルのキャラクターはあるが、観光分野ではない。

事務局：深谷市のふっかちゃんというキャラクターは、自由に使うことができるようだ。

リーダー：成功例としてはくまモンだろうか。世界的に知られている。港区にもよいキャラクターがあってもよいかもしれない。ロゴやキャラクターをつくる際には区民が参加できるとよりよいと思う。

リーダー：さて、将来像について話をしてきたが、提言としてまとめようか。

事務局：具体的な事業についてはご意見を踏まえて追加したい。また、将来像については、3つ目の案をベースとして「ファンになるまち」や「観光で輝くまち」などの文言を盛り込みたいと思う。

3 検討テーマの振り返り

終了時間を迎えたため、次回に持ち越すこととした。

4 その他

次の開催日程は、1月30日（木）18時半開始とすることを確認した。会議室は事務局にて調

整の上、連絡することとした。

(閉会)

リーダーが第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
産業・観光グループ（第6グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和2年1月30日（木）18時30分～

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：7名

事務局：対応部門関係課長2名（産業振興課長、観光政策担当課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 テーマ1に対する提言
- 2 テーマ2に対する提言
- 3 その他、提言書について
- 4 提言式に向けて

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	提言書（案）
2	提言に向けた今後の進め方について
参考資料1	第7回グループ会議 議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画

■会議要旨 (開会)

1 テーマ1に対する提言

事務局が、資料1の説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：テーマ1の提言案はいかがか。

参加者：きれいにまとめてあると思う。

リーダー：参画と協働の推進に出ている産業ボランティアという考え方はどうか。

参加者：ボランティアがより発展していく印象を受けた。それぞれの分野の専門性を持った方が活躍していくという、色んな知見を持たれた方が参画し、ボランティア社会がより進展していくというポジティブなイメージで捉えている。

参加者：自分たちは直接関わらないが、提言した内容はどのように取り組まれるのか。

事務局：来年度策定する基本計画・実施計画のなかに取り入れられることになる。素案の段階で、提言の取り入れた状況も含めてフィードバックする予定である。基本計画・実施計画に取り入れられれば実行されることになる。

参加者：ユニバーサルデザインについて触れるとよりよいと思う。まちづくりにも、コミュニケーションにも役立つと思う。車いすで生活するようになってから必要性を感じている。ツーリズムでもユニバーサルデザインは取り入れる必要はあると思う。

事務局：まちづくり部門の提言に、ハード面でのバリアフリーは盛り込んでいる。このグループでは、シティプロモーションに関する提言で盛り込んではどうかと思うので、あらためて議論いただきたい。

参加者：これまで議論してきた内容がすべて反映されている。ただ、将来像のキャッチフレーズについて、「未来の歴史」という言葉に魅力を感じるものの、「未来の歴史づくりをデザインする」と変更してはどうかと思う。

参加者：表現が苦しいところがある。色んなものを追加していきたいことは分かるが、焦点がぼやけていくのではないか。

参加者：自分は「未来の歴史をデザインする」の方がよいと思う。ところで「MINATO」は全角で表記されているがよいのか。

事務局：港区の文書規定に沿うかたちになると思うが、現在の基本計画・実施計画では、英語の綴りは半角で表示しており、略字は全角になっている。MINATOがどちらにあたるか確認する。

参加者：キャッチフレーズ的には長くならない方がよいので、いまのままでよい。

参加者：「日本の歴史」と「未来の歴史」の2か所で「歴史」が用いられているが、その点は整理した方がよいと思う。

参加者：自分はいまの方がインパクトがあってよいと思う。

リーダー：いずれの指摘もそのとおりだと思うだけに悩ましい。

参加者：港区は過去、現在、未来において世界をリードするというのが表現で切るとよいと思うが、表現が難しい。

リーダー：すぐに結論が出ないので、預からせていただきたい。

参加者：いずれにせよ「未来の歴史」という言葉は入れてもらいたい。「未来の歴史」ということで、これまでの歴史もこれからの将来も包括できると思う。

2 テーマ2に対する提言

事務局が、資料2について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：先ほどのユニバーサルデザインを加味するという意見だが、アクセシブルツーリズムという考え方がある。どこかに盛り込めるとよいと思うが、全体的にカタカナ語が多様されているので、気をつけた方がよい。

参加者：「訪れる人が皆、港区ファンになる魅力ある観光都市MINATO」は「み」でつながっており、印象が強いと思う。ただ、愛される港区を目指すことはよいが、その結果として区民が住んでいてよかったと思えるようになることにも触れられるとよいと思う。

参加者：港区という全体を見てもらおうという意図は共感でき、メッセージとしてもよいと思う。埋もれた観光資源を発信する人たちを増やすことは大変だとは思いますが、発信する人たちにいかに委ねるかが大事だと思う。楽しみながら発信してもらえるとよいと思う。
先ほどカタカナ語が多いという意見があったが、多くの人が読むとすると脚注などで説明した方がよい。

事務局：カタカナ語のなかでもビジュアルアイデンティティは特に説明が必要だと思う。ビジュアルアイデンティティの議論でイメージされていたのは「アイ・ラブ・ニューヨーク」のロゴのようなものだった。そういったニュアンスも含めて脚注で説明できるとよいと思う。また、インフルエンサーも言い換える言葉がないので同様である。

参加者：この提言は令和8年度を目標としているが、そのころには高齢者の割合が増える。港区には色々な分野の専門家が多く住んでいるが、退職している時期なのではないか。そのような人材を活用することを区が率先して行ってもらいたい。観光に関わる人材も少なくないと思う。

事務局：参画と協働に、旅行業の人材によるボランティアを盛り込んでいるが、より広げた方がよいか。

参加者：総合支所の事業ですでに取り組みされていることもあると思うので、提言に関連づけられるとよいと思う。

事務局：具体的な事業で人材の発掘を行った上で、参画と協働の人材としてつながっていくという考え方はできると思う。

参加者：テーマ1で産業に特化したボランティアについて触れられているが、産業にかぎらず、あらゆる行政分野でスキルのある人材とつながることができると思う。縦割りでボランティアを活用するのではなく、分野横断的に活動したり、隙間を埋めたりするような活動をするボランティアを統括できるような提言があってもよいと思う。

事務局：全庁横断的に横串を刺すような推進になると思う。このグループ単体で考えられることではないので、持ち帰らせていただきたい。

参加者：たしかに産業・観光に限った話ではないかもしれないが、意見として言っておきたい。

リーダー：観光に関していうと、観光ボランティアを活性化しながら、専門家も巻き込んでいき、統合していくような仕組みがあるとよいのだろう。そのような制度づくりであれば、このグループの提言に盛り込めるのではないかな。

参加者：専門性を有する人がボランティア活動をするのかが気になる。

リーダー：何も有識者を想定しているわけではなく、キャリアを積んだ人というイメージだと思う。いずれにせよ制度があれば参加しやすくなると思う。

参加者：行政がリストをつくっていくとよいと思う。個々人でボランティア的に活動している人は多いと思うので、そのような人たちとどのようにつながり、広げていくかが鍵だと思う。

事務局：テーマ1の提言にもどるが、参画と協働において参画機会をつくるという記述がある。ここをより具体化し、キャリアを生かしたボランティア活動や事業への参画を組織することや、パスをつくっていくということを追記できると、いまの議論は反映できるかと思う。

リーダー：ぜひお願いしたい。ところで、先ほどのユニバーサルデザインについては、どこに盛り込むとよいか。

参加者：区内を多くの人が回遊することを目指すという考え方自体がユニバーサルということにならないだろうか。

参加者：将来像で「ユニバーサル」という言葉を用いてはどうか。

事務局：様々な人々が港区を楽しんでもらいたいということが将来像の趣旨なので、たしかにユニバーサルという考え方は含まれていると言えるだろう。ただ、回遊してもらうには具体的にバリアを解消していかないといけないので、その旨は書いた方がよいと思う。文案をつくった上で確認いただくようにする。

リーダー：これまでのところをまとめて欲しい。

事務局：テーマ1については将来像について意見をいただいたが、それは宿題とさせてもらいたい。キャリアを積んできた人を活かすことについて意見をいただいたので、参画と協働の推進の文章を改めるようにしたい。

テーマ2については、将来像のキャッチフレーズを、港区が愛されるようになることにとどまらず、区民がどのように変わっていくのかということも盛り込むことになった。またユニバーサルデザインの観点を盛り込む必要があることから、将来像について加筆修正することとなった。そのほか、カタカナ語が多いので、脚注をつける必要があるという意見もいただいたので、それは反映したい。

3 その他、提言について

事務局が補足説明を行った。

(主な意見等)

リーダー：「生活支援産業」という言葉は一般には分からないのではないかな。

事務局：福祉や医療のビジネス化を意図した言葉だが、ご指摘のとおりである。例示するなど、工夫したい。

参加者：地域の衰退は、やはり経済的な基盤が弱っていくことが原因だと思う。港区が将来的にも繁栄していくためには、経済基盤の確保が必要である。そのための産業振興でもあると思うが、同時に行政と住民の信頼も大切だと思う。

リーダー：自分たちの説明をする際に「港区愛にあふれる人」と表現してもらいたい。様々な角度で意見交換をしてきたが、愛を感じた話し合いであった。

参加者：港区愛というが、皆さん具体的に港区のどこが気に入っているのか。

参加者：文化施設や自分の欲求を満たしてくれる環境があり、思い立ったときにすぐにアクセスできることである。

参加者：安全さである。何でも近くにあって住みやすい。夜も土日も人がいなくなるので、ゆったりしている。

参加者：移動に便利であり、日常生活も便利である。まれにうるさく感じることもあるが、それだけ静かな環境なのだとも思う。

リーダー：自分に対して肯定的な人が多いので住みやすい。余裕を感じる。文化施設や公園も多く、散歩しても楽しいことが、長く住んでいる理由である。

参加者：港区には古いものもあれば新しいものもある。その極端さがおもしろい。

参加者：地形が富んでいることも特徴だろう。それをもっと生かしていけるとよいと思う。

参加者：先ほど港区が反映するには経済基盤をつくる必要があるという意見があったが、人口を増やすことも重要だと思う。

参加者：それでいうと、テーマ2の将来像には住んでいる人に対する考え方が示されるとよい。観光客を増やすだけでなく、ファンになってもらい、港区に移り住んでもらえるようになるとよい。

4 提言式に向けて

提言式は3月23日の6時半から。最初に全体会で集まった9階の部屋で行われる。各グループ5分で区長に説明する。

(閉会)

リーダーが第8回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

